

2019年3月期 決算説明会資料



株式会社アドバネクス

2019年5月23日

本資料は2019年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

1. 2019年3月期 連結業績概要

2. 2020年3月期 連結業績予想

3. 状況説明

- 概況
- 各工場の状況
- 自動車市場、医療市場、規格品
- 生産性改善の取組み
- まとめ

1-1. 2019年3月期連結業績概要

(単位：百万円)

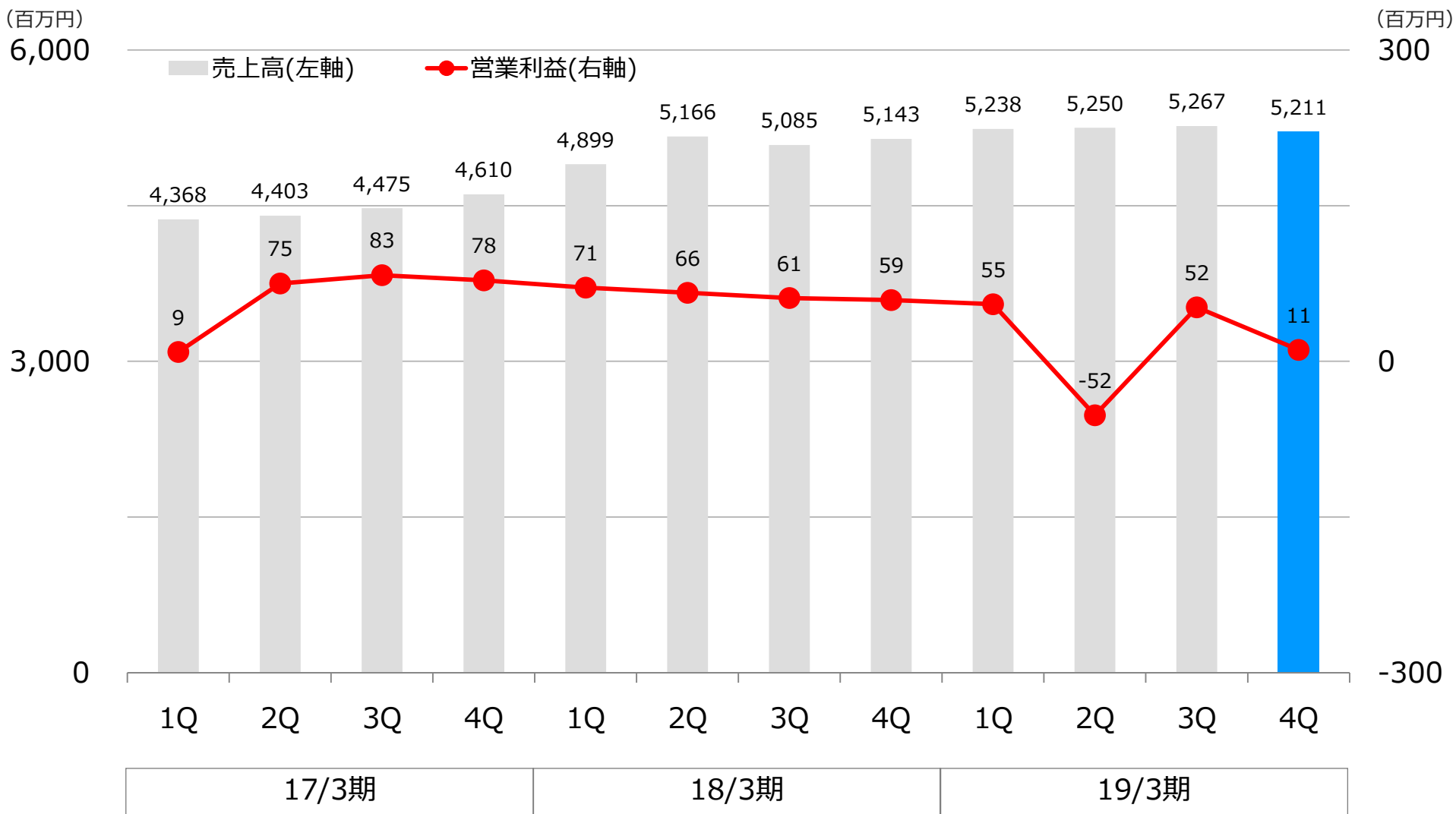
	2018/3期	2019/3期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	20,294	20,967	672	3.3%
営業利益	259	66	△192	△74.4%
営業利益率	1.3%	0.3%	-	-
経常利益	237	69	△167	△70.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	49	△107	△157	-

18年3月期レート： 1 US\$ = 110.8円

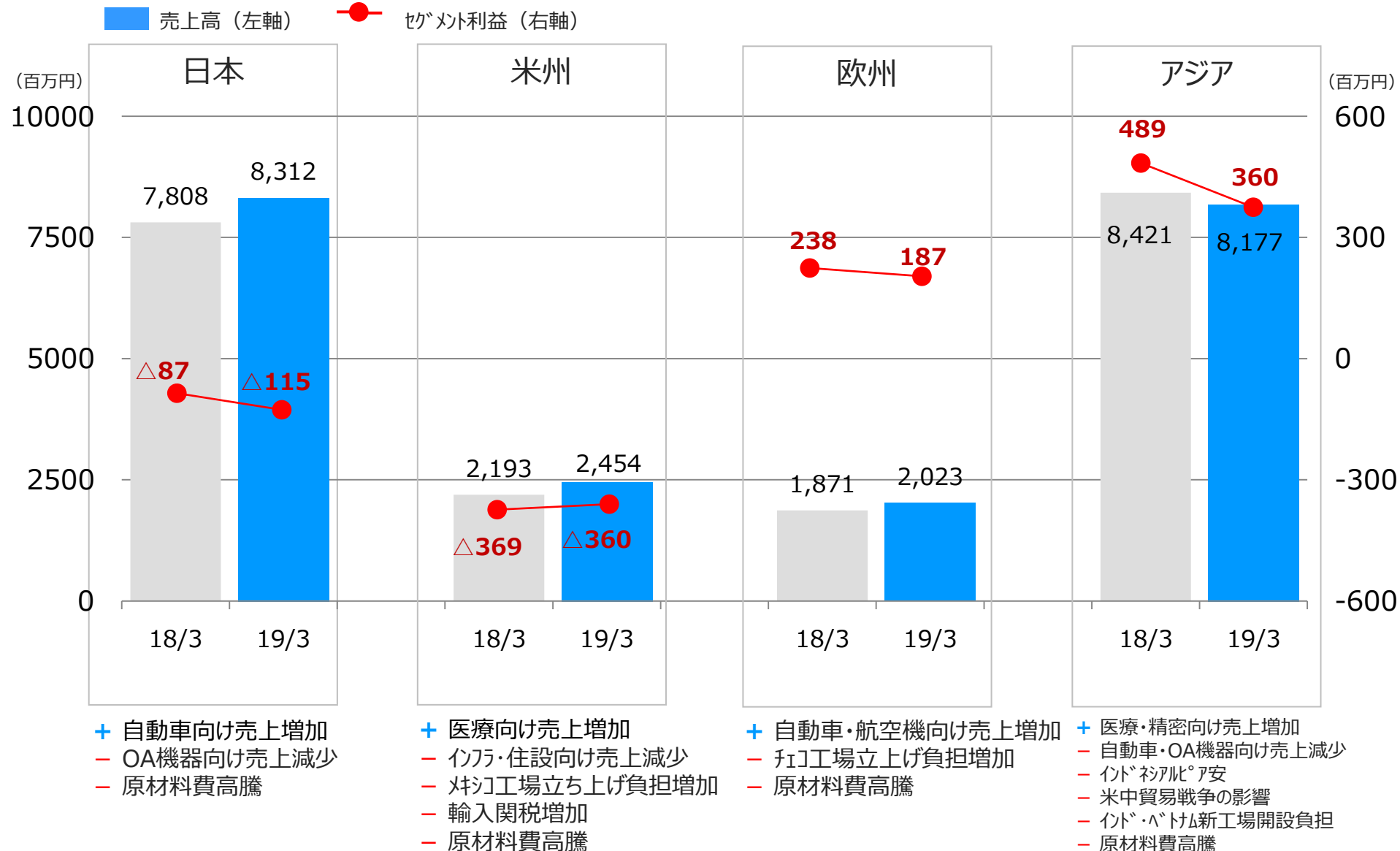
19年3月期レート： 1 US\$ = 110.7円

- 売上高は、米中貿易摩擦による中国事業への影響や、インドネシアルピア安などがあったが自動車向けが好調に推移し、前期比増収
- 営業利益は、中国子会社の減収による減益、メキシコ工場立ち上げコストの増加、ベトナム・インド・チェコの新工場開設準備費用、材料費高騰などにより前期比減益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、インドネシア子会社に関するのれんの減損損失の発生などもあり107百万円の損失

1-3. 連結売上高・営業利益推移



1-4. 所在地別売上高・セグメント利益



18年3月期レート： 1 US\$ = 110.8円

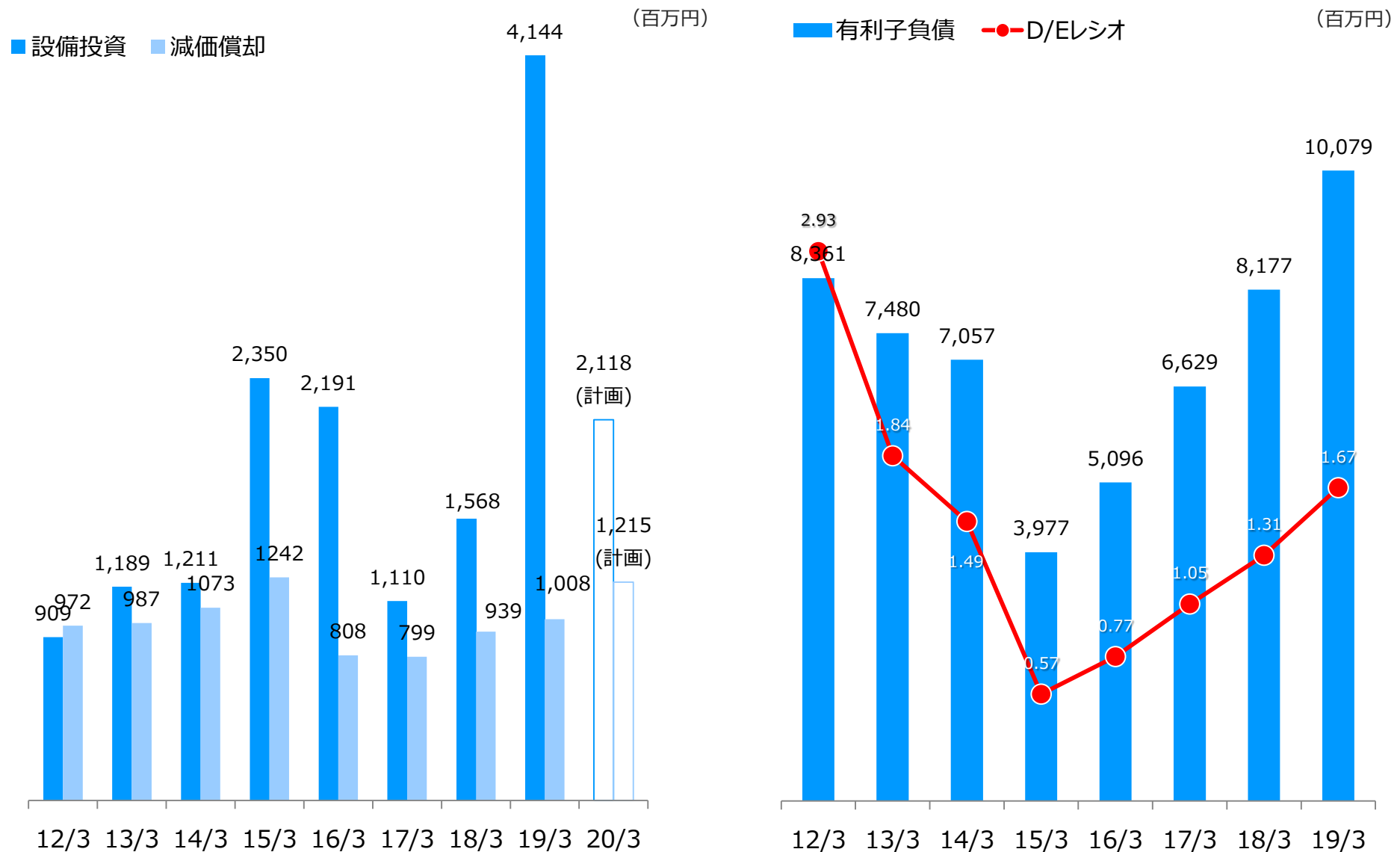
19年3月期レート： 1 US\$ = 110.7円

1-5. 連結市場別売上高

(百万円)

	18/3期	構成比	19/3期	構成比	増減額	増減率
自動車(輸送機器)	9,449	46.6%	10,047	47.9%	597	6.3%
OA機器	3,633	17.9%	3,425	16.3%	△209	△5.8%
医療機器	1,539	7.6%	1,847	8.8%	307	19.9%
精密機器	1,093	5.4%	1,054	5.0%	△40	△3.7%
インフラ・住設	924	4.6%	850	4.1%	△74	△8.0%
航空機器	535	2.6%	710	3.4%	175	32.7%
AV・家電	704	3.5%	641	3.1%	△63	△8.9%
情報通信機器	693	3.4%	601	2.9%	△93	△13.4%
その他	1,724	8.5%	1,792	8.5%	73	4.2%
合計	20,294	100.0%	20,967	100.0%	673	3.3%

1-6. 設備投資・減価償却・有利子負債



1. 2019年3月期 連結業績概要

2. 2020年3月期 連結業績予想

3. 状況説明

- 概況
- 各工場の状況
- 自動車市場、医療市場、規格品
- 生産性改善の取組み
- まとめ

2. 2020年3月期 連結業績予想

(百万円)

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	前期比増減額	前期比増減率
売上高	20,967	21,900	+933	+4.4%
営業利益	66	330	+264	+400.0%
営業利益率	0.3%	1.5%	-	-
経常利益	69	260	+191	+276.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△107	50	+157	-

(円)

一株あたり 配当	30	30	±0	0%
-------------	----	----	----	----

1. 2019年3月期 連結業績概要

2. 2020年3月期 連結業績予想

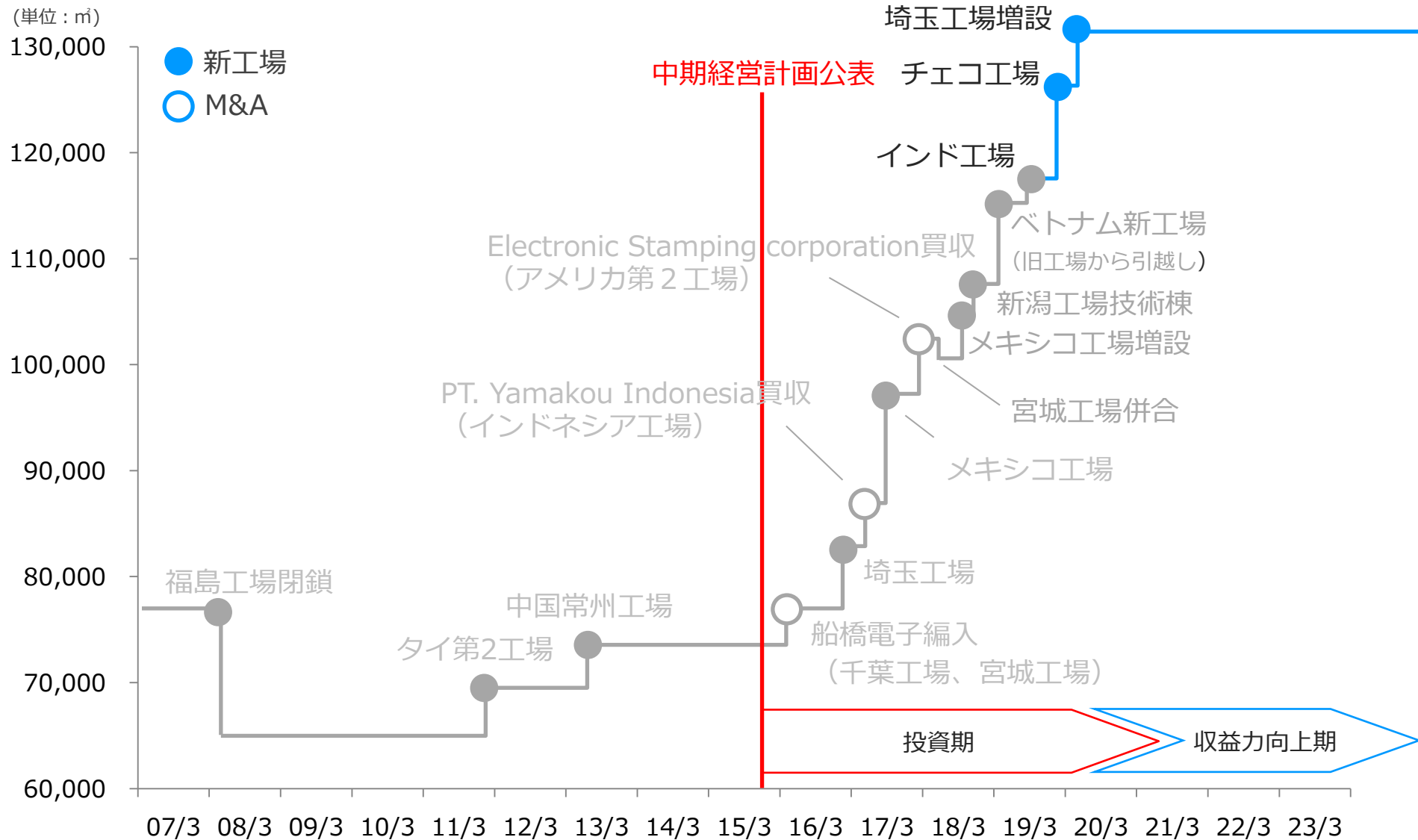
3. 状況説明

- 概況
- 各工場の状況
- 自動車市場、医療市場、規格品
- 生産性改善の取組み
- まとめ

- 2019年1月にインド工場、6月にチェコ工場と埼玉工場2期工事が完成。中期経営計画における工場拡張は完了
- 新工場は先行投資負担は大きかったが、稼働率上昇に伴い徐々に赤字幅は圧縮され、黒字化の目処が立ってきた
- 注力している自動車、医療、規格品の見通しは明るい

3-2①. 各工場の状況：工場総面積推移

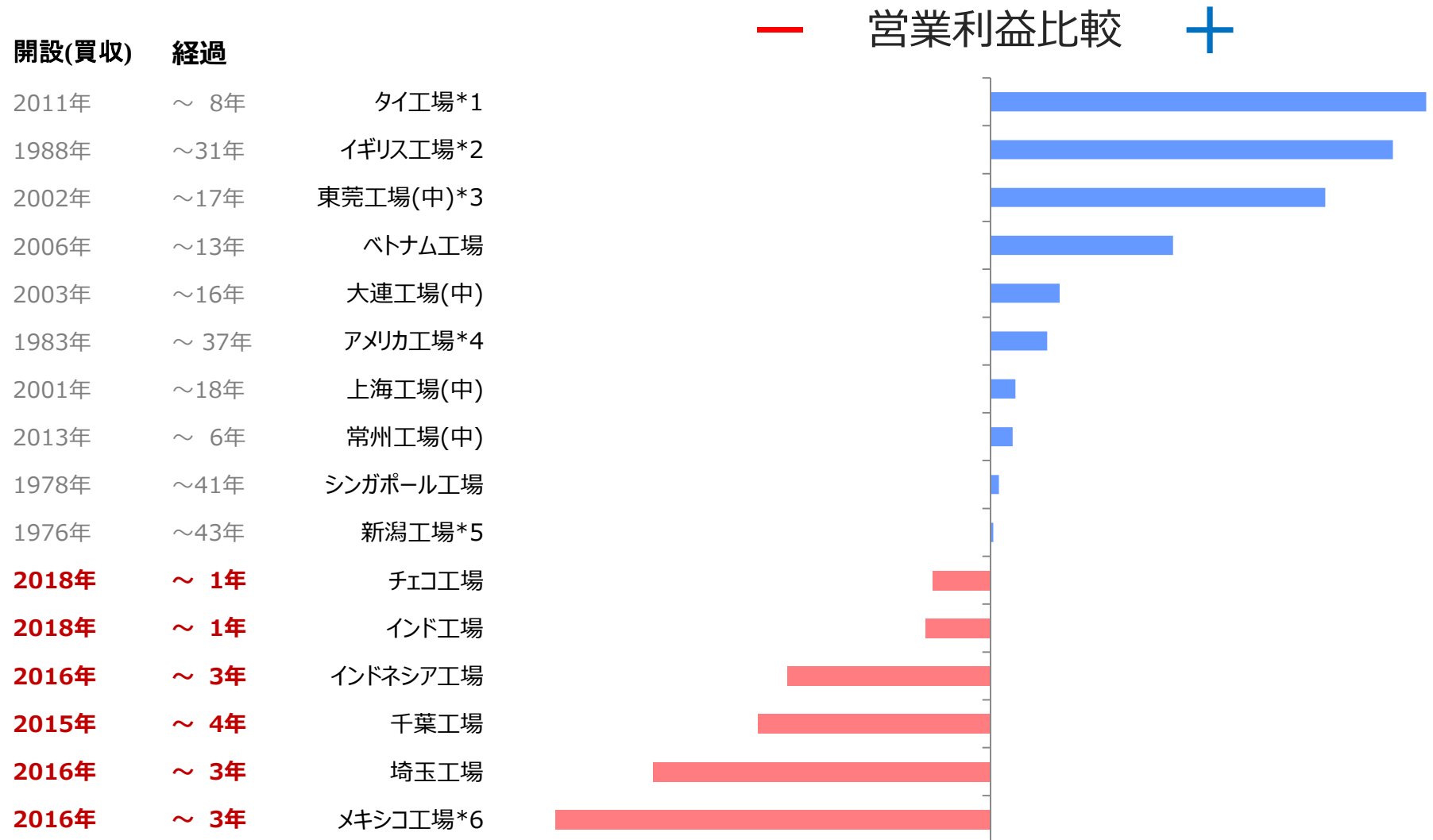
拡張計画は完了。生産性向上を図り収益力を高めていく



3-2②. 各工場の状況：営業利益比較

2019/3期実績。開設6年以上の工場合計では営業利益13億円

*海外子会社の日本への本社費負担含まず

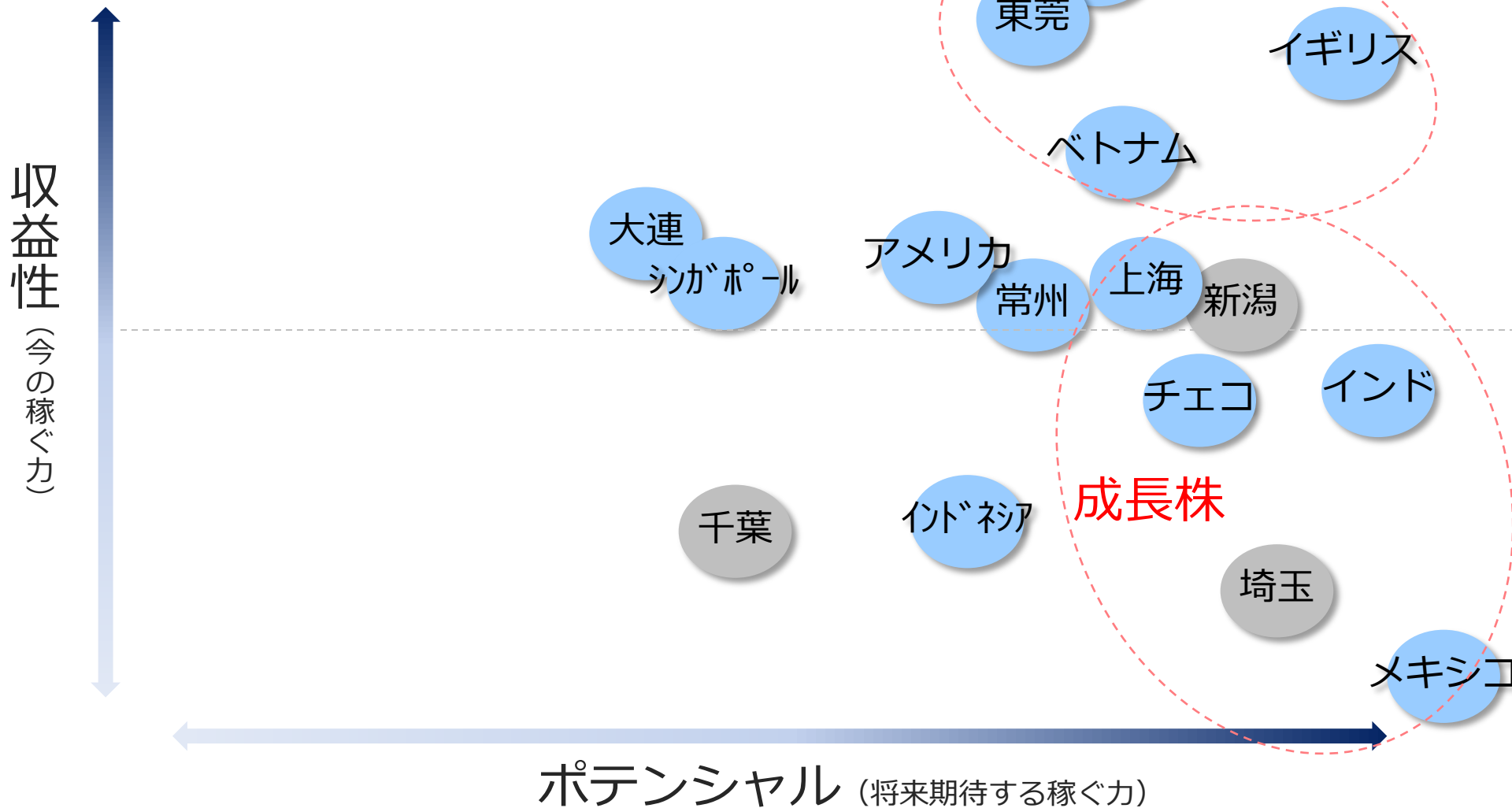


複数拠点ある場合の開設年は規模の大きい方。*1 71外工場とホンダリー工場の合算。開設年はホンダリー工場。*2 開設年はサウスウェル工場。*3 東莞は香港との合算

*4 第一工場と第二工場の合算。開設年は第一工場。*5 新潟工場と大分工場と青森工場の合算。*6 メキシコ工場とカリフォルニア工場の合算。開設年はメキシコ工場

3-2③. 各工場の状況：ポジショニングマップ ADVANCE

全子会社とワンオンワンの事業計画審議会を実施（2019年2月）
投資計画と見通しをアップデート





メキシコ工場

- 自動車向け中心（75%）、線ばね・板ばね
 - 徐々に売上が増加、今期後半にはブレイクイーブン
 - 来期以降から大きなプロジェクト開始、その後本格化
 - 自動車産業向け品質マネジメント規格IATF16949を取得
- ⇒ **黒字化は間近。23/3期には稼ぎ頭に**



インドネシア工場

- 自動車向け中心（95%）、インサートモールド
 - 顧客への信頼回復に伴い引き合い・受注件数増加
（直近は苦戦、来期から拡大局面に転換）
 - 一方、同国の最低賃金高騰は足かせ
 - 国内市場のポテンシャルは高い
- ⇒ **今期後半にブレイクイーブン、来期黒字化の計画**



チェコ工場

- 精密・医療向け中心、線ばね・板ばね・深絞り
- 6月生産開始予定
- 千葉工場から精密用深絞り、イギリス工場から医療向け線ばねを移管し、開設時から売上を確保
- “創業赤字”圧縮のため、初期投資・採用は抑える

⇒ **2年以内に黒字化する見通し**



インド工場

- 自動車向け中心、線ばね
- 2019年4月生産開始
- 多くの欧米系・日系・インド系の有力顧客から引き合い

⇒ **1年以内に黒字化する見通し**



ベトナム工場

- 2018年11月に面積4倍の新工場に引越し
- 新たにプレス加工を導入
- OA機器向け拡大
(顧客の生産拠点が日本、中国からベトナムへ)
- 一方、新工場への引越しにより固定費は増加
⇒ **旧工場の収益を超えるのは2～3年後、
4年後以降は収益倍増を狙う**



埼玉工場

- 自動車向け中心（100%）、インサートモールド・フォーミング
- パワーコントロールユニット、インバーター、バッテリー向けなど次世代自動車基幹部品向けが今期ようやく量産スタート
- 工場拡張(2019年6月完成、+3,670m²)
⇒ **2年以内に黒字化する見通し**

外交問題

当社への影響

影響する 拠点

米中貿易 摩擦

中国は、景気の低迷で中国4拠点の売上は軒並み低下
日本も、中国向け輸出減で影響あり（今期も継続）
米国は、輸入材に高関税がかかりマイナスの影響

上海
大連
東莞
常州
日本
米国

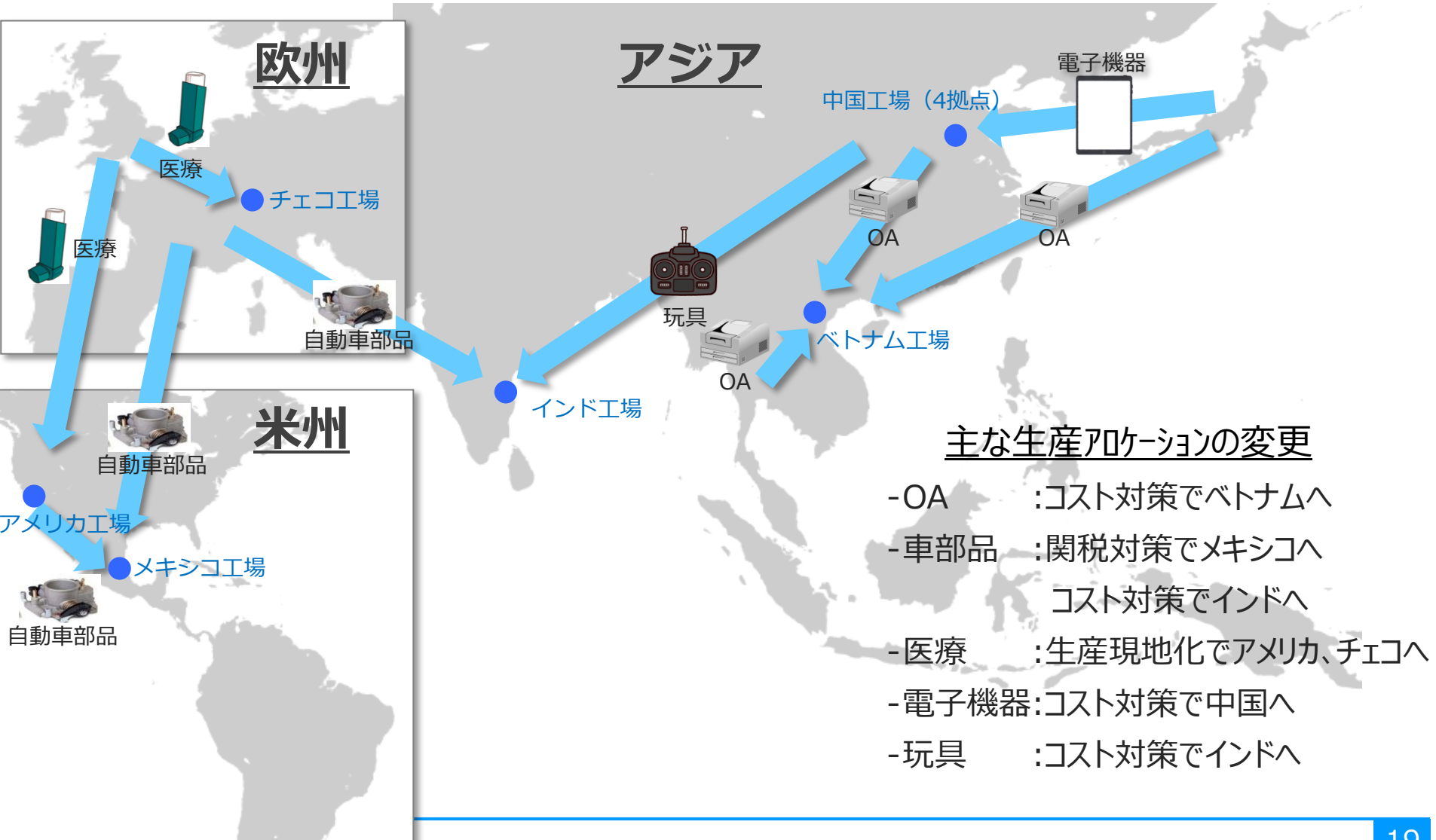
英国EU離脱

未だに離脱の条件について決着がつかないことから
影響度は不明
何れにしても悪影響は避けられないが、当社製品は
イギリス国内と米国向けが主なので影響は限定的
欧州向けはチェコ工場で拡大を目指す

英国
チェコ

3-2⑧. 各工場の状況：生産地変更への対応

顧客の生産アロケーションが変わっても、グローバル体制で需要をカバー
各国の貿易協定・関税政策の影響や、需要地・最適生産地の移動が背景



3-2⑨. 各工場の状況：市場・顧客の傾向

各国の経済政策や、需要地・最適生産地が変わり、ターゲット顧客も変化
中国拠点は日系依存から脱却、逆に米州は日系との連携を強める傾向

自動車
以外

- 中国4拠点 : 中国・欧米系が増えていく傾向
- アメリカ・メキシコ・チェコ : 日系が増えていく傾向
- 日本・インド・チェコ : 自動車向けが増えていく傾向
- その他 : 傾向不変

イギリス

チェコ

シンガポール

ベトナム

日本

東莞

アメリカ

大連

上海

タイ

常州

インド

メキシコ

インドネシア

自動車

日系

非日系

- グローバル並行生産のニーズが増える
- 部品共通化により 1 製品あたりの生産数が急増



自動車向け



インサートカラー



深絞り



インサートモールド



押しばね



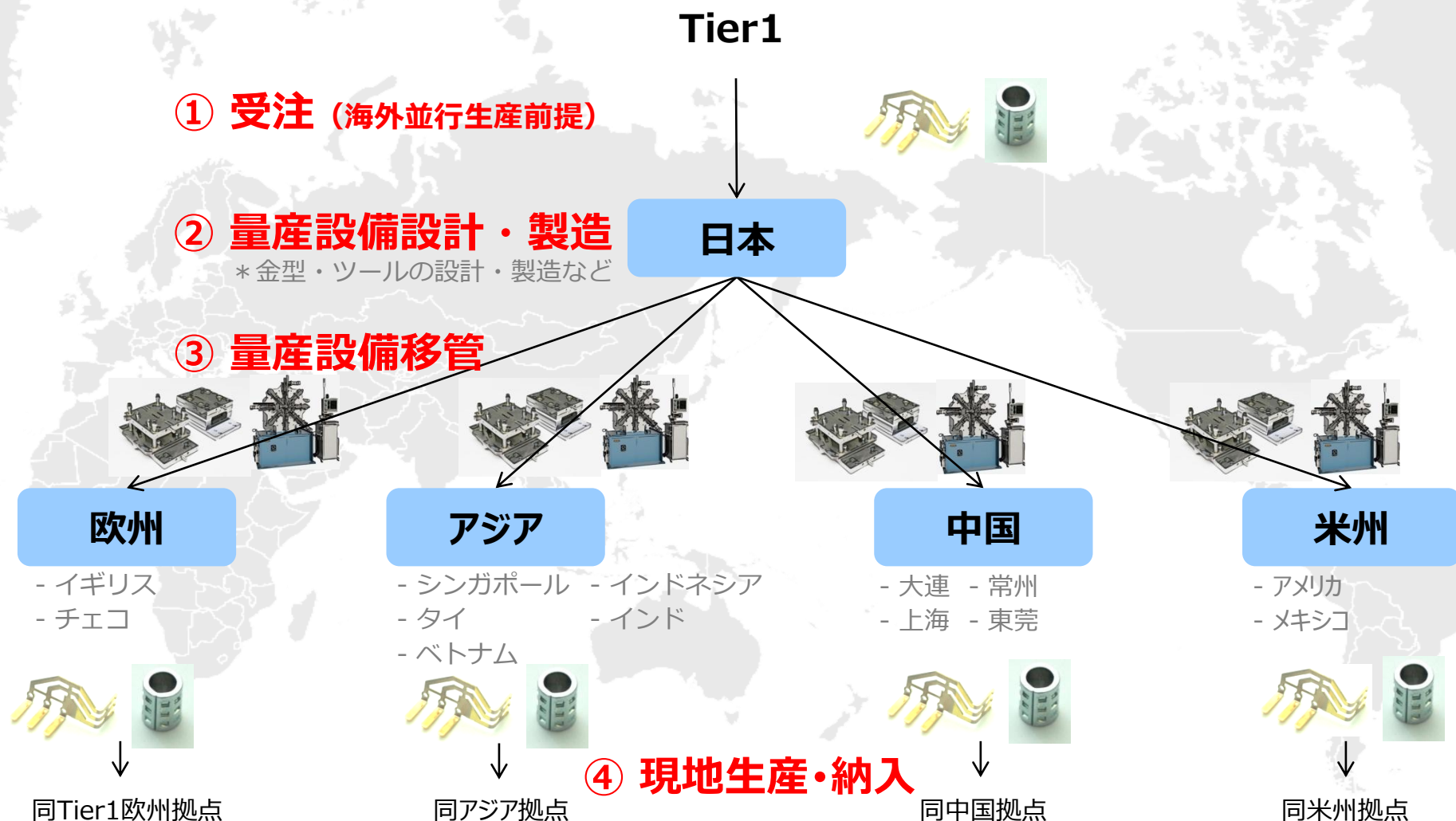
トーションばね



板ばね、プレス部品

3-3②. 自動車市場：グローバルTier2の強み

自動車部品共通化によりグローバル平行生産が増加
日本で準備した設備を海外に展開（品質の均一化、移管作業の効率化）



3-3③. 自動車市場：部品共通化

自動車部品の共通化が加速

- プラットフォームに採用されると複数車種に使用され1製品あたりの数量が増加
- グローバル化の傾向もあいまって、当社の特長と顧客ニーズがマッチ
- 今は過渡期、今後さらにこの傾向が強まる見通し



トヨタ自動車が公表した「次世代プラットフォーム」

直近の取り組み ～ TNGAとカンパニー制による効果 ～

5/10

TNGAによる商品導入・効果



個性の全く異なるそれぞれの愛車をお届け

直近の取り組み ～ TNGA ～

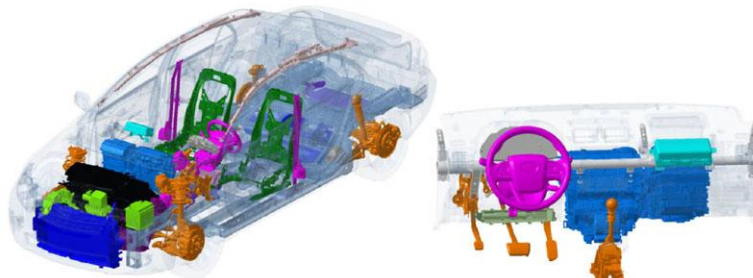
3/10

TNGA
Toyota New Global Architecture

クルマのポテンシャルUP

- カッコいいデザイン
- 気持ちいい走り
- 燃費・安全

全体最適・共用化



今後の展開計画

7/10



- 2020年頃までに約半数の販売車をTNGAモデルへ
- トヨタならではの付加価値を拡充し、商品力・競争力を強化

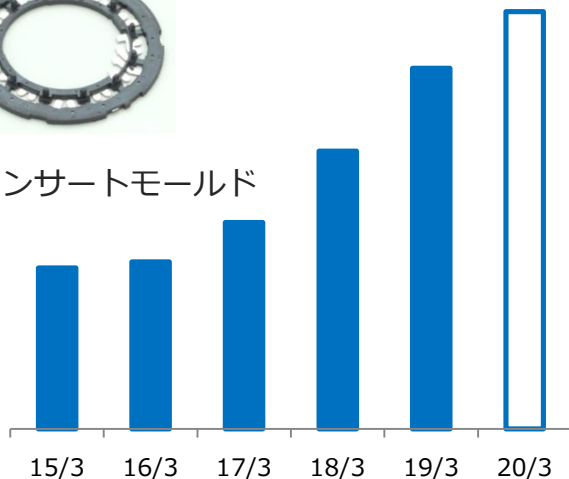
出典：トヨタ自動車(株)プレゼンテーション資料より

3-3④. 自動車市場：主要製品の生産数推移

自動車部品共通化の影響で 1 製品あたりの生産数が増加



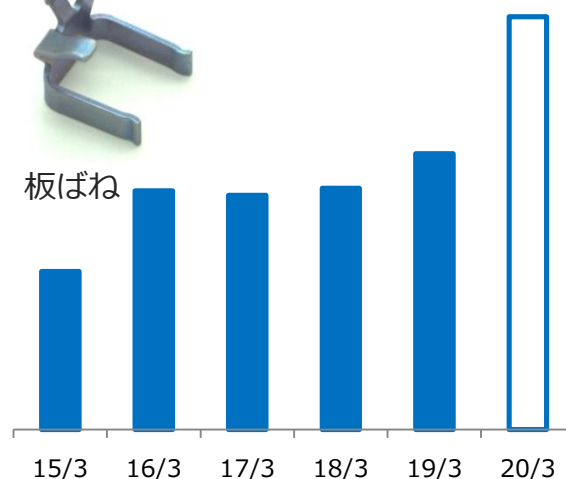
インサートモールド



2.6倍
(15/3期比、数量)



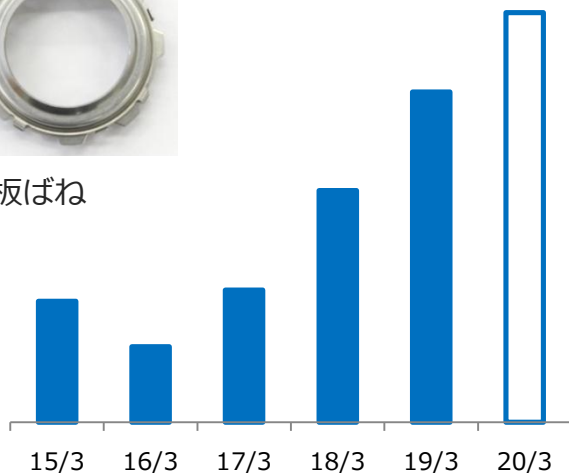
板ばね



2.6倍
(〃)



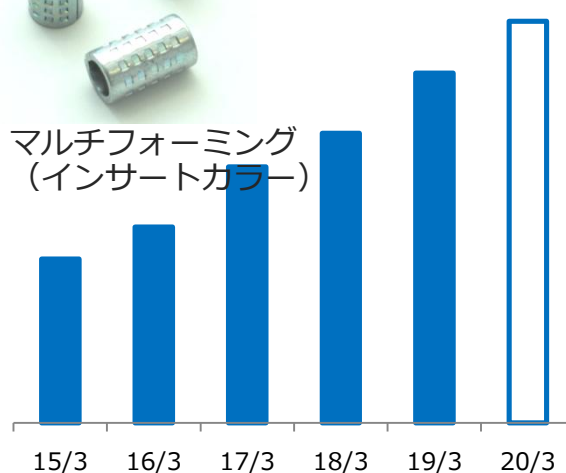
板ばね



3.4倍
(〃)



マルチフォーミング
(インサートカラー)



2.5倍
(〃)

インサートカラー以外の製品の名称や機能については社外秘（加工方法のカテゴリ（インサートモールド、板ばねなど）は開示）
2020/3の数量はフォーキャスト

- 富裕・中間層の増加、罹患者の増加でマーケット拡大
- 喘息薬・糖尿病薬キットは長期的・安定的に拡大する



医療向け



トーションばね



押しばね

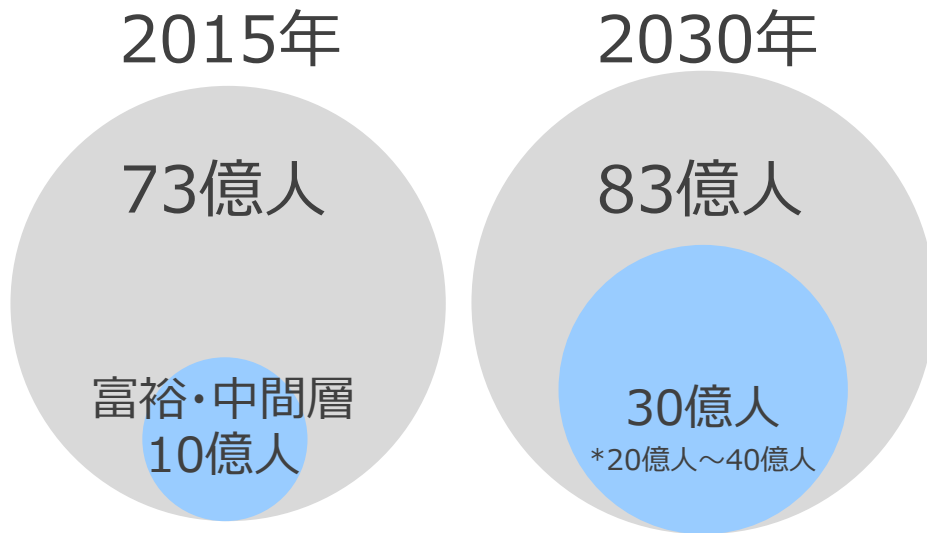


薄板長巻ばね

3-4②. 医療市場：マーケット

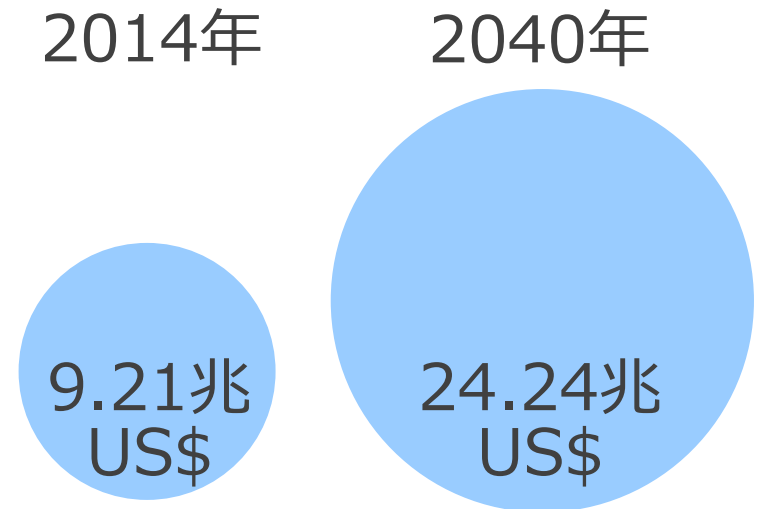
マーケットの母数となる富裕・中間層人口が増加し、医療費は急増する

世界人口



出典: Diamond

世界医療費



出典: ケアネット

3-4③. 医療市場：吸入薬系デバイス

吸入薬系デバイス向けは今後長期的に拡大する見通し

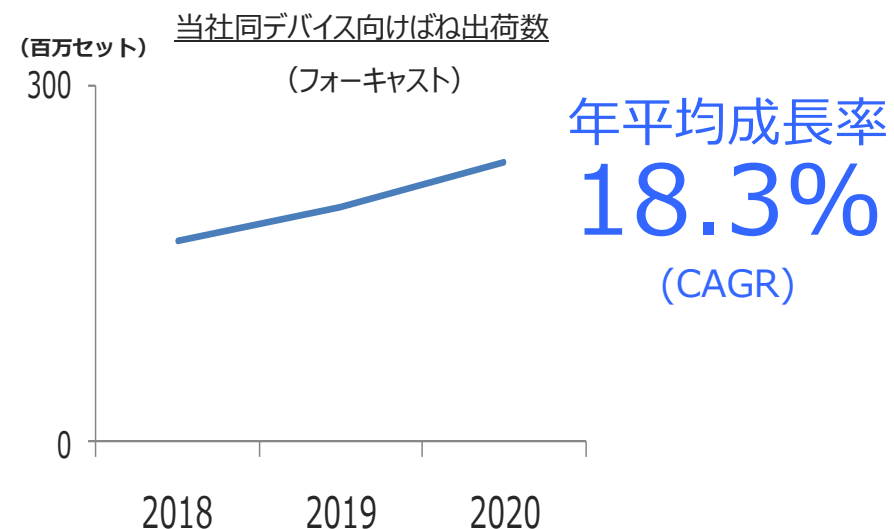
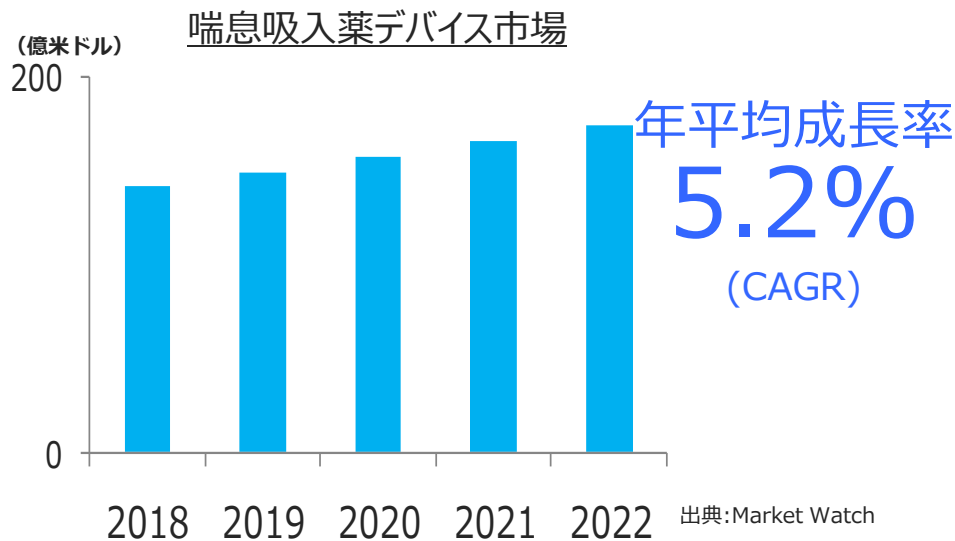
- 認可新薬の増加に伴いマーケット拡大
 - 喘息患者の増加（特に北米）
 - 使い捨て吸入器デバイスの普及
- 呼吸器系疾病増加
 - ブタクサなどの生育促進による花粉量増
 - 地球温暖化
- 高度医療を受けられる高・中間層人口の増加
- イギリス、アメリカに続きチェコでも並行生産の予定



吸入薬系デバイス
(イメージ)



トーションばね
(類似品)



3-4④. 医療市場：注射器系デバイス

注射器系デバイス向けも同様に今後長期的な拡大が期待できる

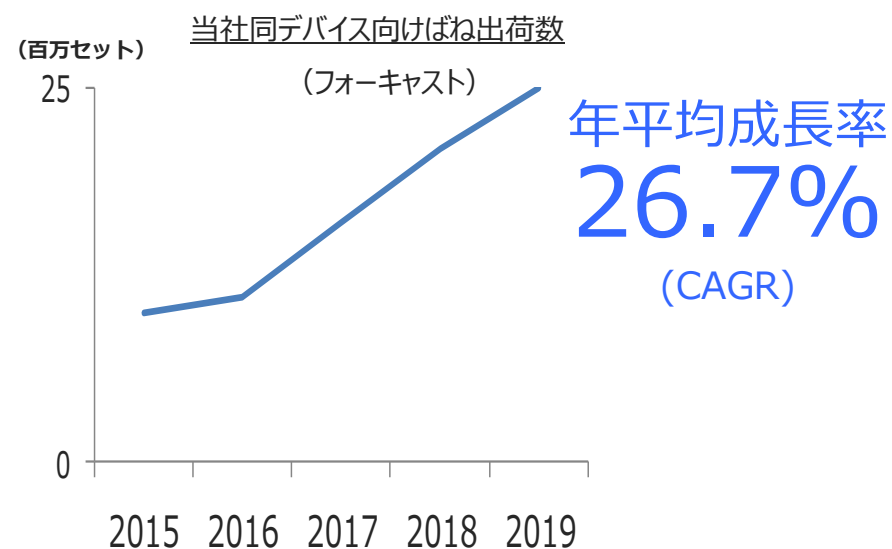
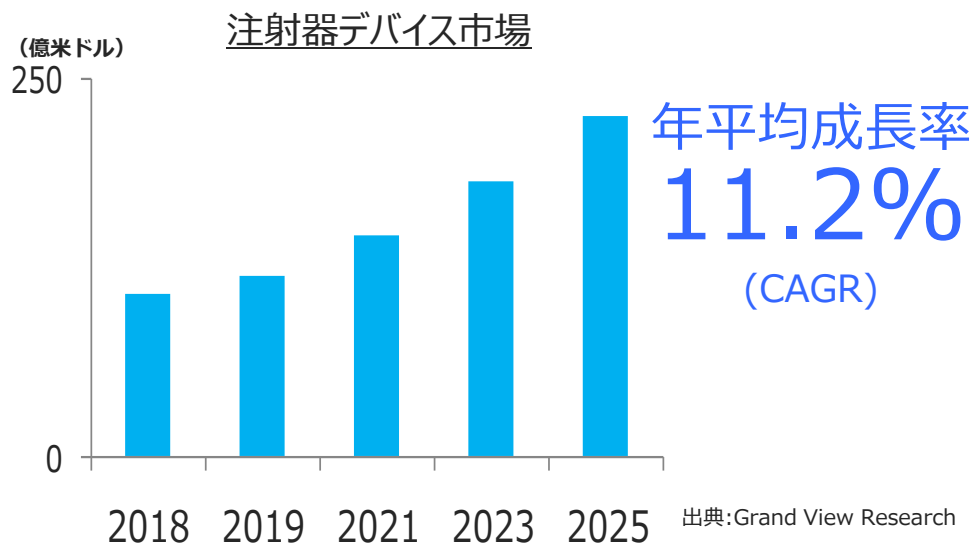
- 利便性向上で利用数増加
 - 自動注入タイプの登場
- 糖尿病疾病者増加
 - 食生活の欧米化
 - 新興国の所得増加
- 高度医療を受けられる高・中間層人口の増加



注射器系デバイス
(イメージ)



押しばね
(類似品)



- 新製品「インスタントロック」を発売
- グローバル販売戦略の見直し

規格品



インスタントロック



ロックワン



タンゲレス・インサート

3-5②. 規格品：新製品「インスタントロック」 ADVANCE

ロックワンに続くボルト・ナット脱落防止具「インスタントロック」



インスタントロック

- 片手でワンタッチ取り付けができるナットゆるみ止め
- 地震による天井落下防止に有効
- 導入コストが低い（作業時間が短い）



ボルトの弛み・脱落で地震で天井が落下



経年の振動でボルトが脱落



延べ床面積1㎡に1.5個使用

新丸の内ビル = 195千㎡

→ 293,250個

23区オフィスビル年間供給量 = 1,000千㎡

→ 1,500,000個

全国オフィスビル総延べ床面積 = 8,929万㎡

→ 133,935,000個



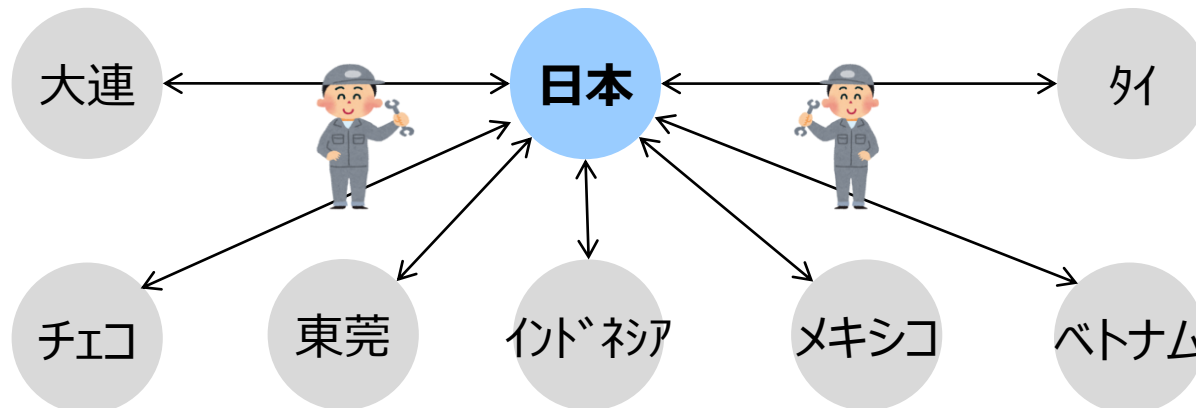
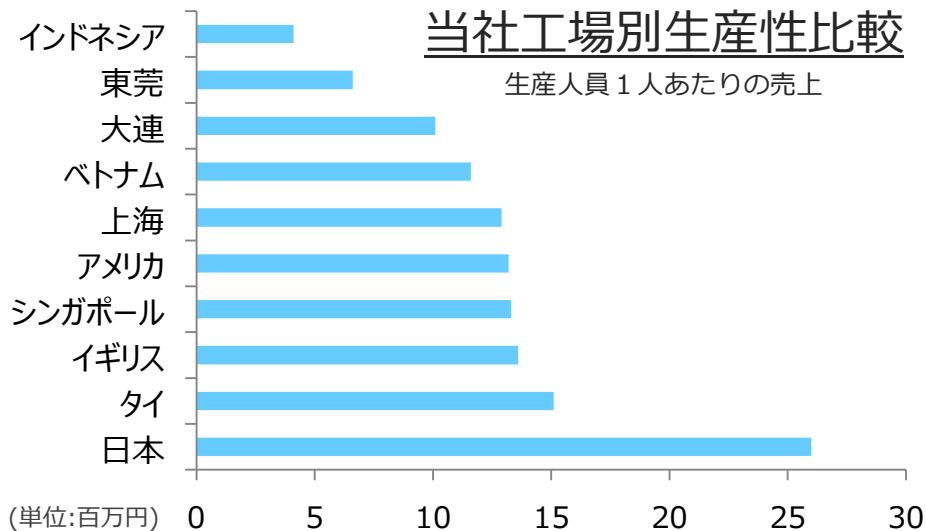
洗濯バサミの要領でワンタッチで装着可
作業コストが低く導入のハードルが下がる

3-6. 生産性改善の取組み

一人あたりの生産性は当社工場の中で日本がダントツ
自動化技術を海外に展開

無人ライン

線パッキンの製造設備の例



日本拠点の主な技術的機能

- 技術者派遣(駐在)
- 出張支援
- 技術的問合せ対応
- 研修生受け入れ
- 工場視察受け入れ
- 金型、機器製造・輸出

- ハコ物（工場）の新設・拡大は完了。ハコの中身を充実させ
トップラインを上げることで収益拡大の局面に変えていく
- 日本の生産技術の横展開でグループ全体の生産性を改善させ、
収益拡大を加速させる
- グローバル体制の優位性をフルに活かし顧客の変化に対応する

ADVANCEX

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
総務部広報IR課

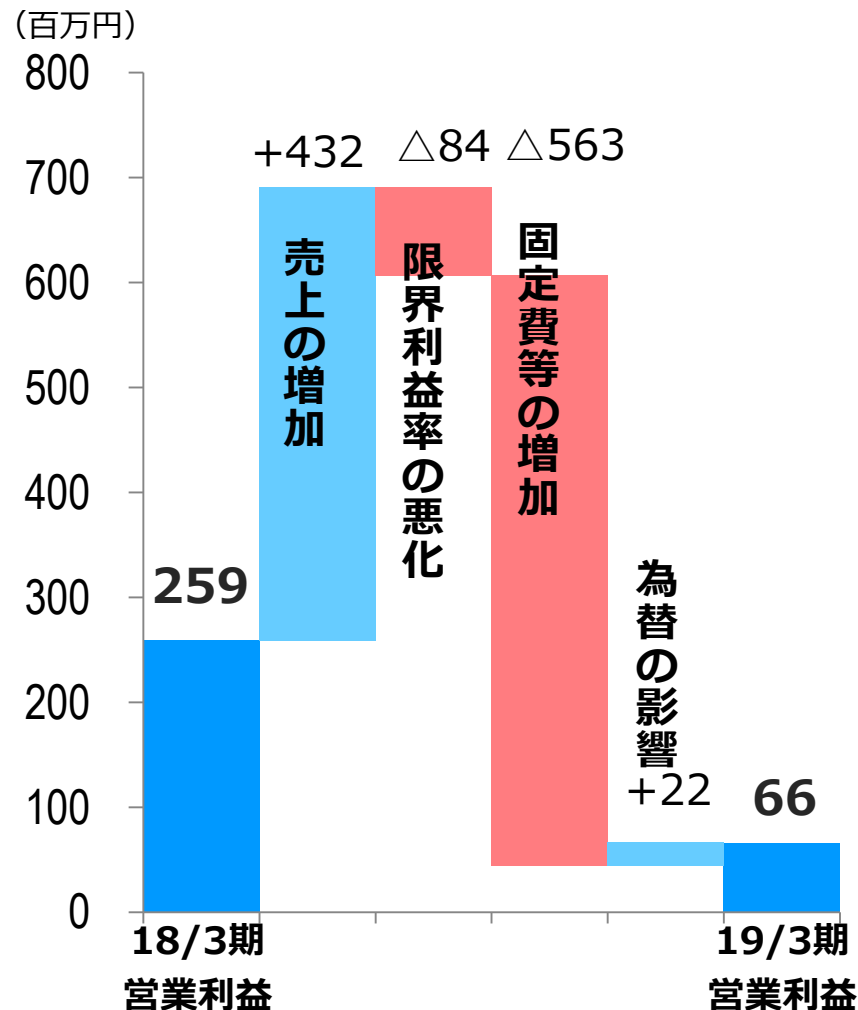
TEL : 03 - 3822 - 5865

Email : tsutomu_kumaki@advanex.co.jp

URL : <http://www.advanex.co.jp>

営業利益差異

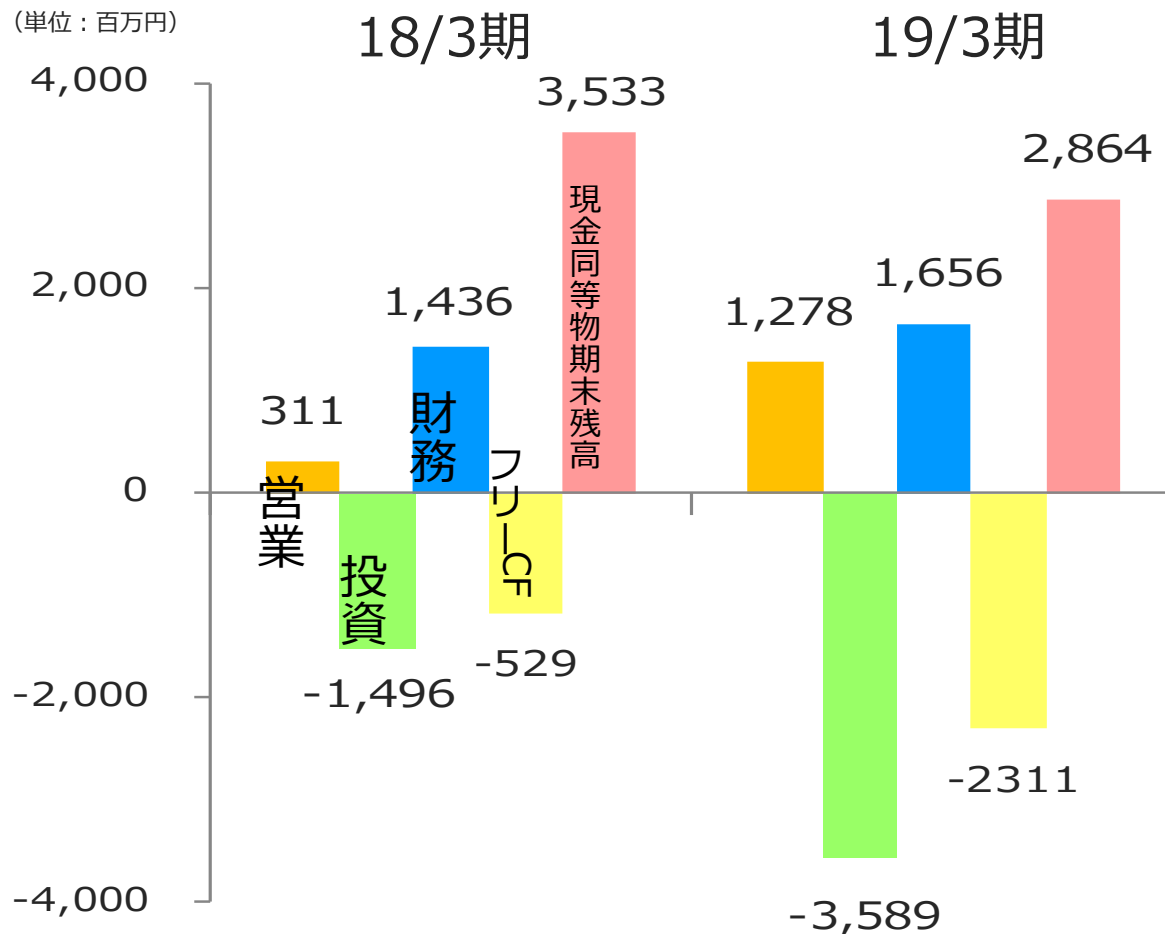
前期からの変動要因



前期に比べ売上の増加の影響があったものの限界利益率の悪化や、先行投資など固定費の増加があったことから営業利益は△193百万円の減少

- 売上増による要因：+432百万円
- 限界利益率の悪化による要因：△84百万円
原材料費率が上がった影響など
- 固定費の増加による要因：△563百万円
設備投資、人員増などにより固定費・経費が増加
- 為替の影響：+22百万円
ドル・ポンドは前期並。
業績のよいタイの通貨（バーツ）が円安、
業績の悪いインドネシアの通貨（ルピア）が円高となり、プラスに働く

(単位：百万円)



営業活動によるCF

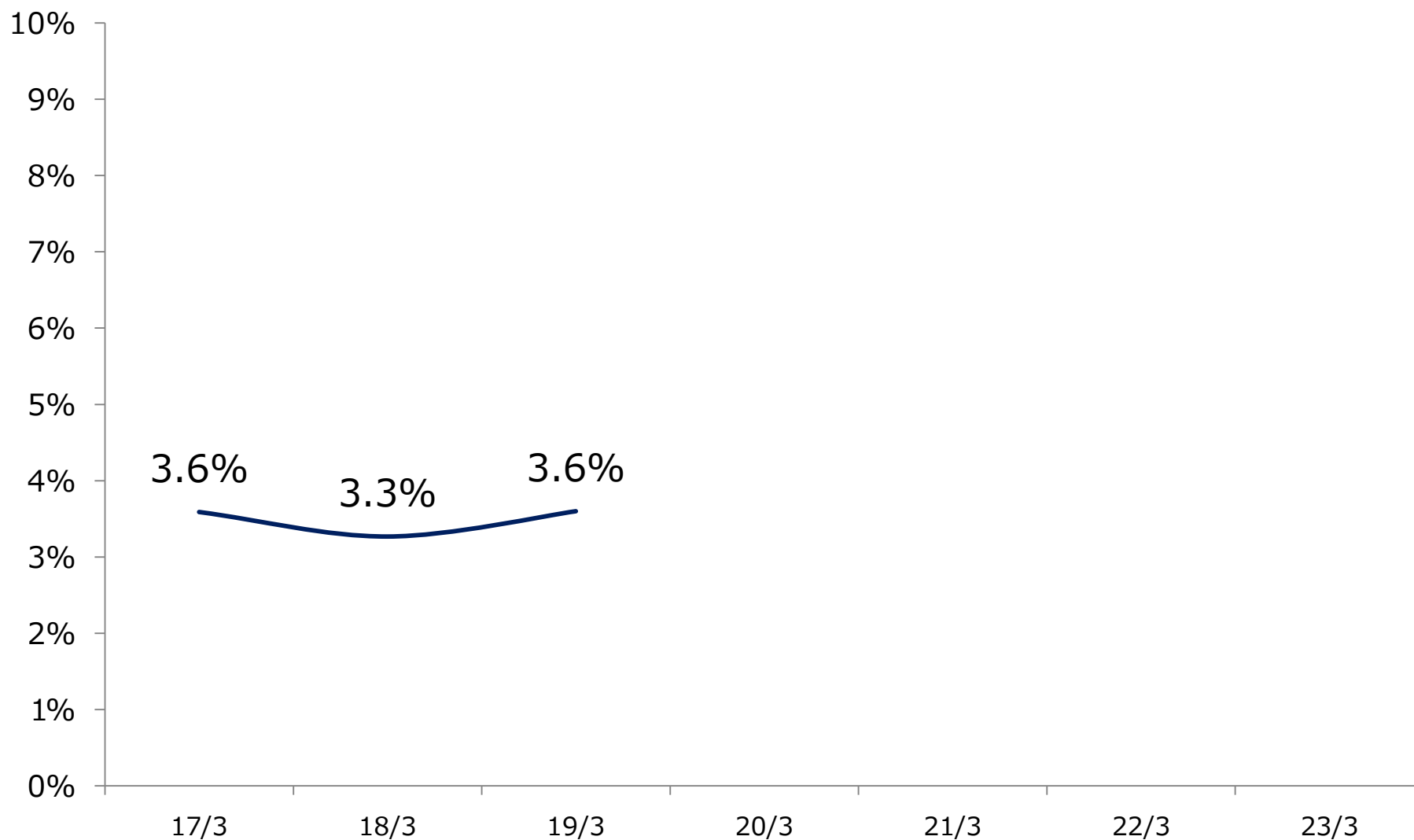
減価償却費による資金留保等により資金が**1,278百万円増加**

投資活動によるCF

ベトナム新工場、メキシコ工場の設備投資、新潟工場のリノベ工事などにより**3,589百万円減少**

財務活動によるCF

銀行からの借入れ等により資金が**1,656百万円増加**



	10年物国債利回り	β	支払利息	実効税率	期首期末平均有利子負債
2018/3期	0.060%	1.35	55百万円	30.6%	7,403百万円
2019/3期	-0.051%	1.74	65百万円	30.6%	9,128百万円

〔社名〕

株式会社アドバネクス

(東証一部)

〔設立〕

1946年11月



〔事業内容〕 精密ばね製品等の製造・販売

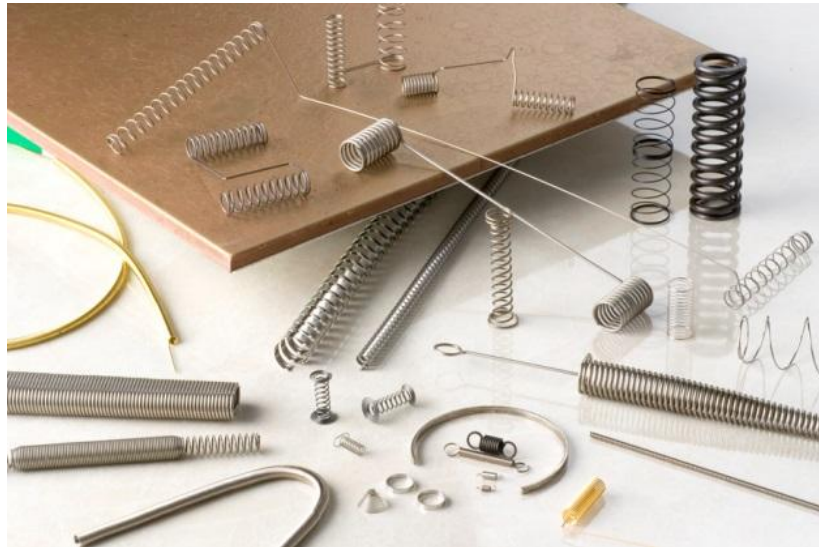
〔従業員数〕 1,979名 (連結)

365名 (単体) * 2019年3月末時点

〔連結対象子会社〕 15社 (国内1社、海外14社) * 2018年9月末時点

〔売上〕 209億円 * 2019年3月期

板ばね



線ばね



フォーミング加工

タングレス・インサート



インサートカラー

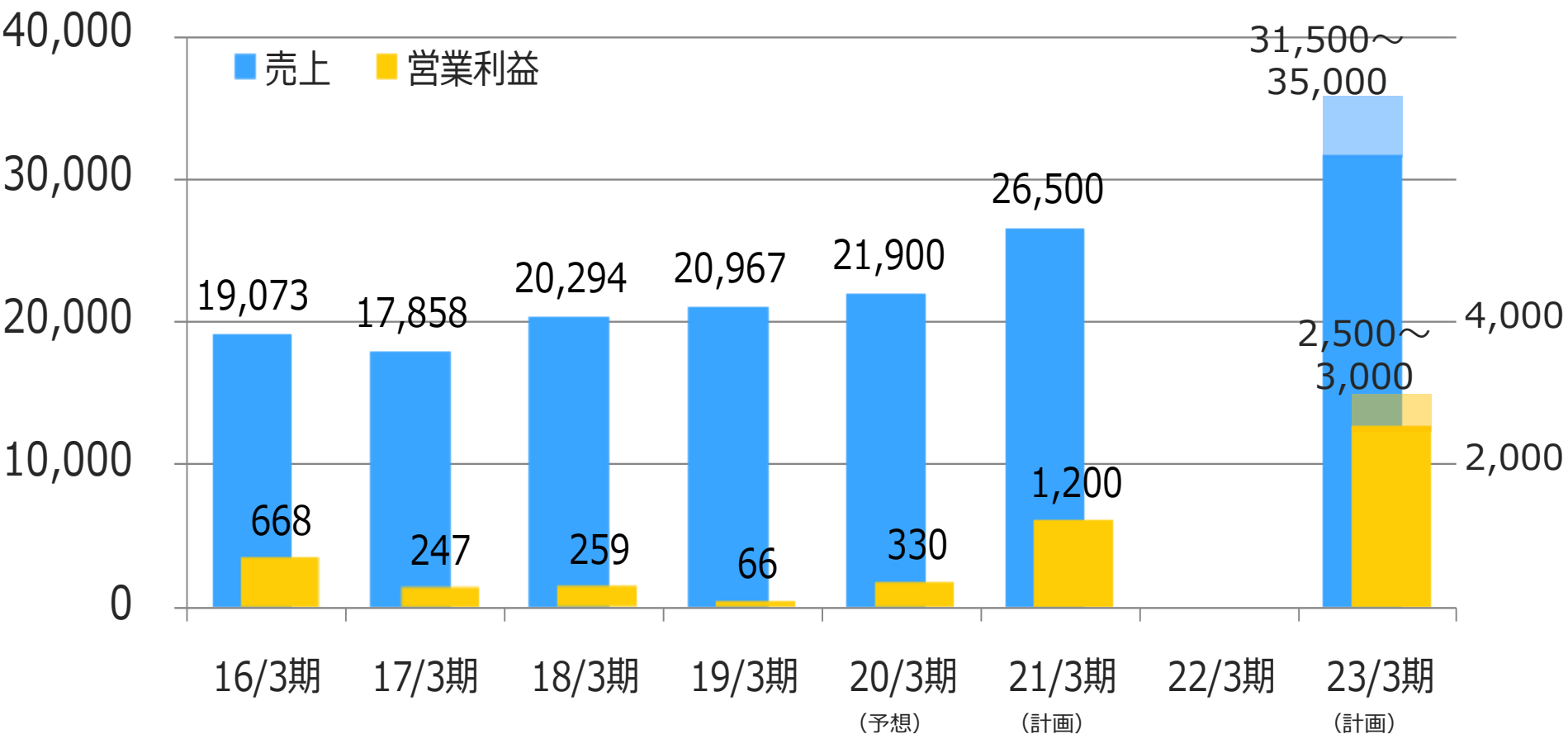


ロックワッ

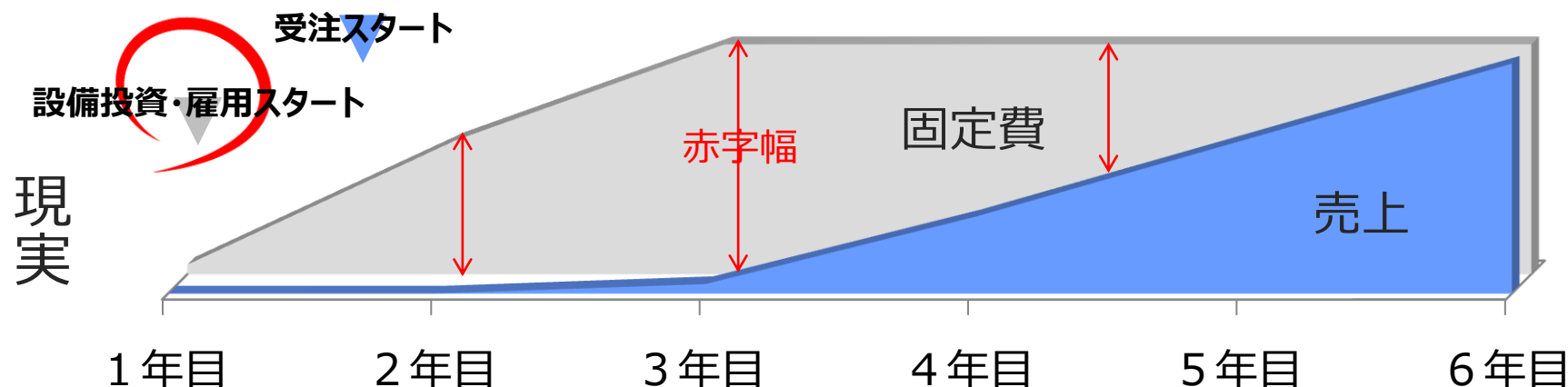
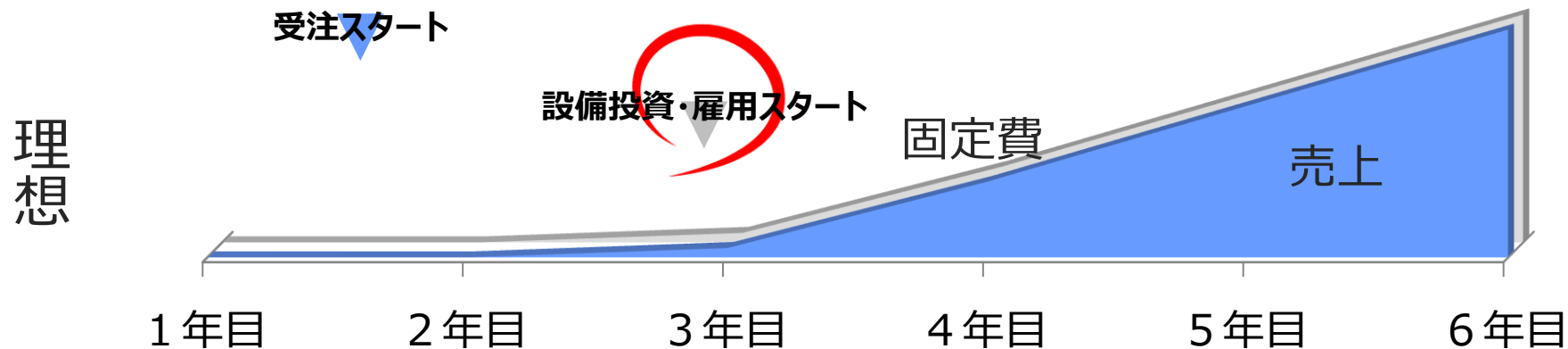
収益が悪化し足元は苦戦

(売上：百万円)

(営業利益：百万円)

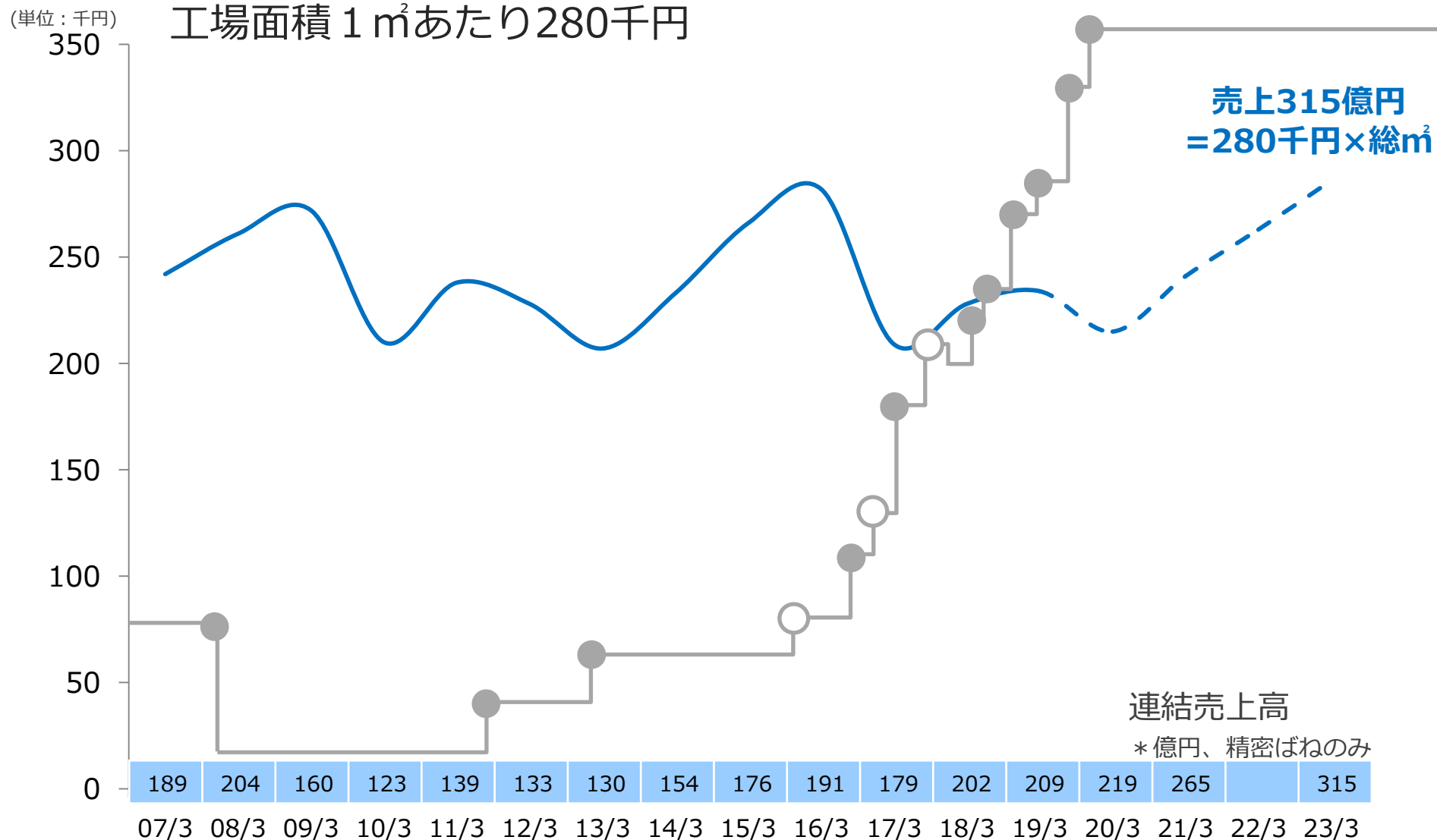


新工場の自動車向け受注には設備と人員を揃えることが先
固定費先行は不可避



(参考資料) 面積あたりの売上

売上315億円、営業利益25億円の前提
工場面積 1 m²あたり280千円

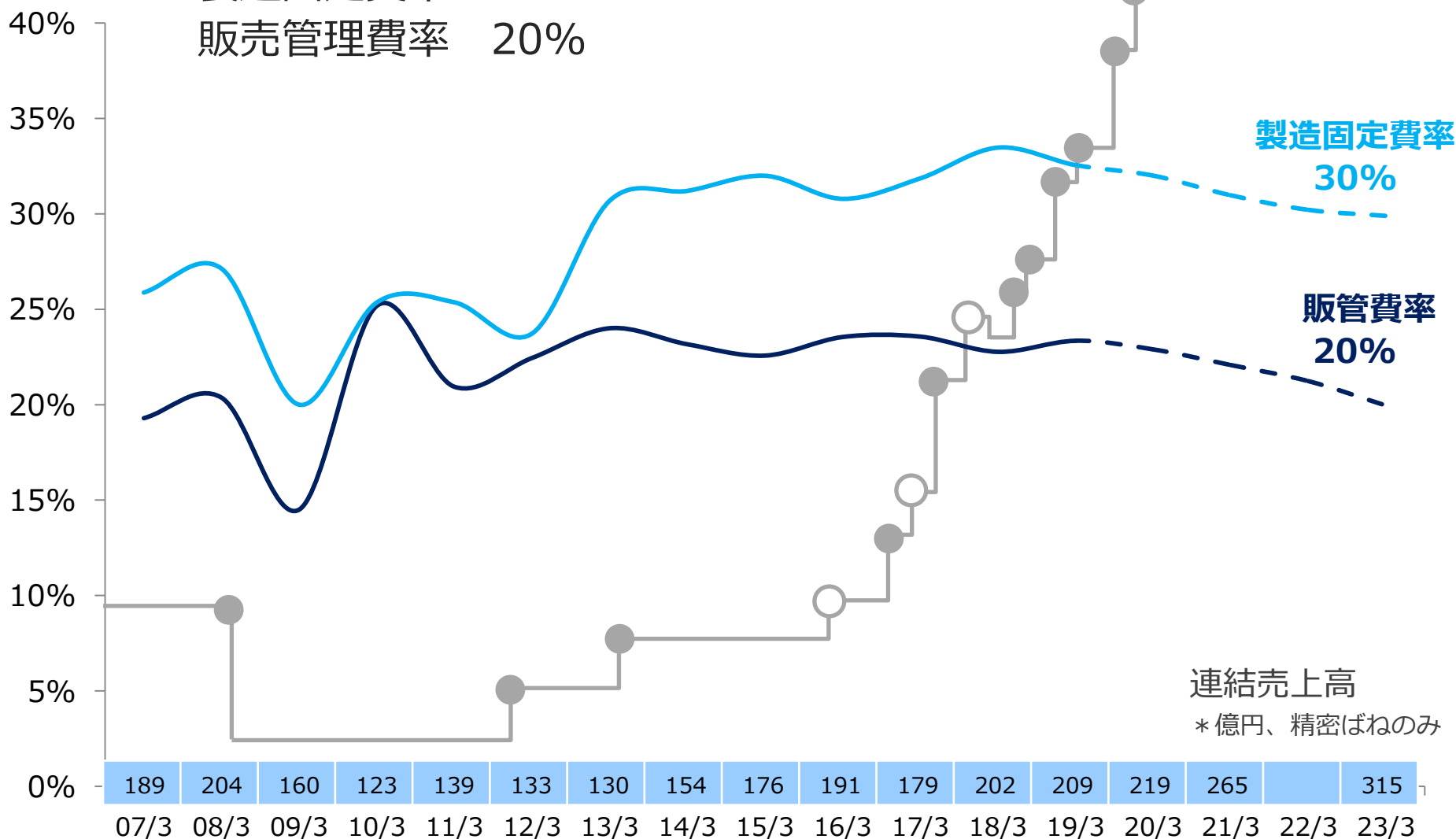


(参考資料) 固定費・販管費推移

売上315億円、営業利益25億円的前提

製造固定費率 30%

販売管理費率 20%



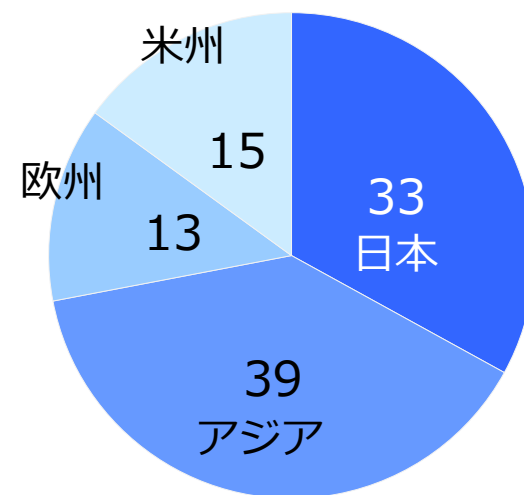
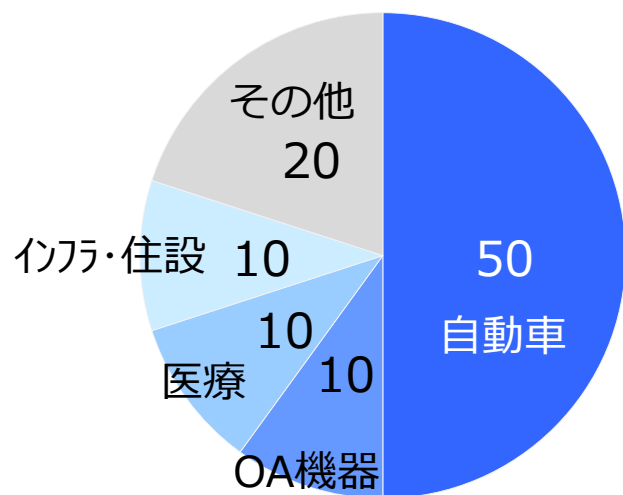
連結売上高

* 億円、精密ばねのみ

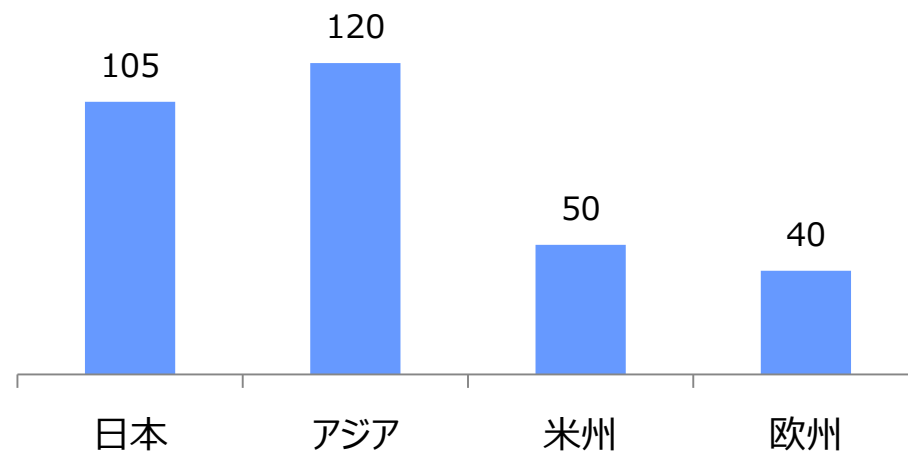
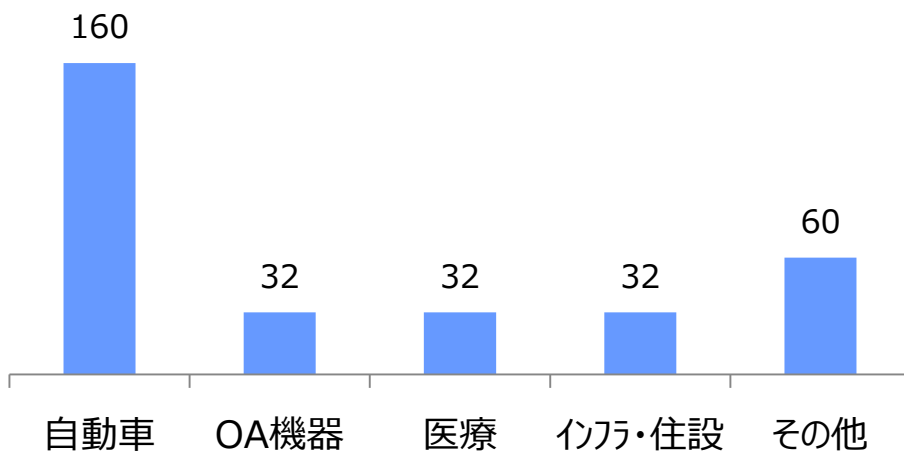
市場別

売上構成(%)

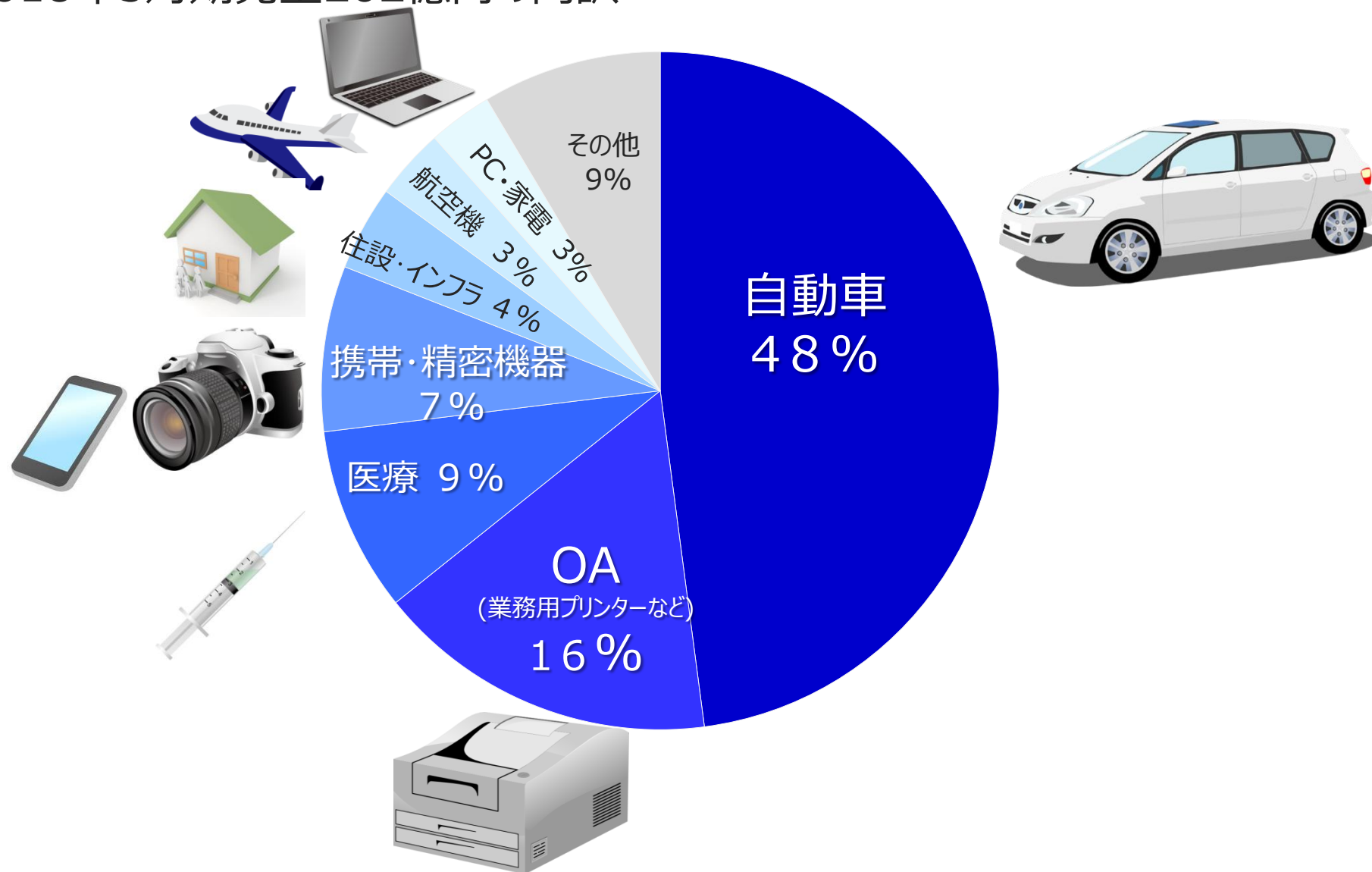
地域別



売上額 (億円)



2018年3月期売上202億円の内訳



各業界のトップ企業が主要顧客

取引社数： 約2,000社
製品種類： 約15,000種

自動車

デンソー
ボッシュ
ケーヒン
パナソニック
日立AMS
他

OA

キヤノン
日系OA機器メーカ
HP
他

医療

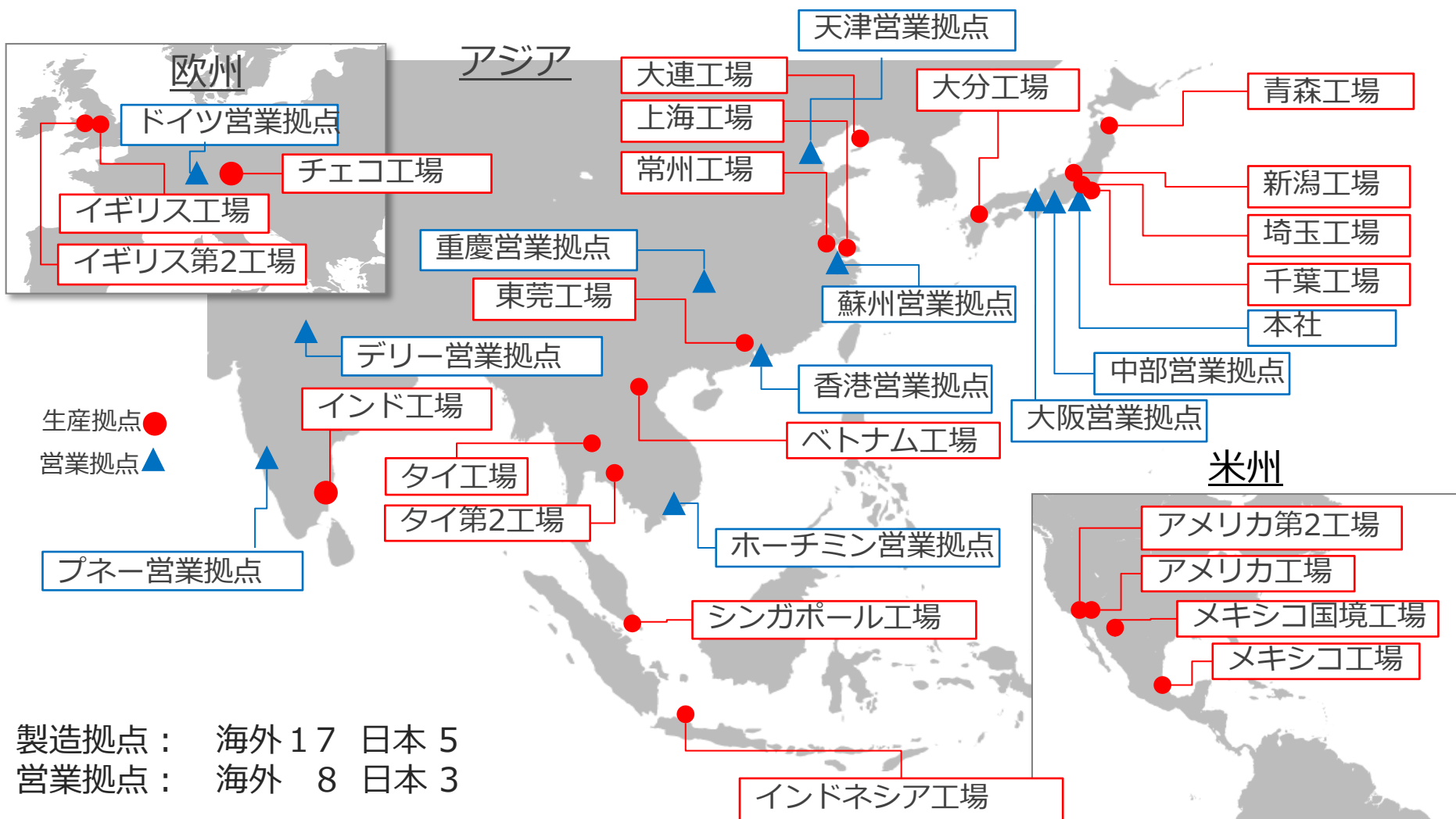
製薬海外大手
メディキット
オリンパス
HOYA
他

精密 他

キヤノン
ソニー
パナソニック
富士フイルム
他



精密ばねメーカーでは最多の海外拠点数



製造拠点は営業拠点も兼ねる

ばね業界において“グローバルニッチ”のポジション

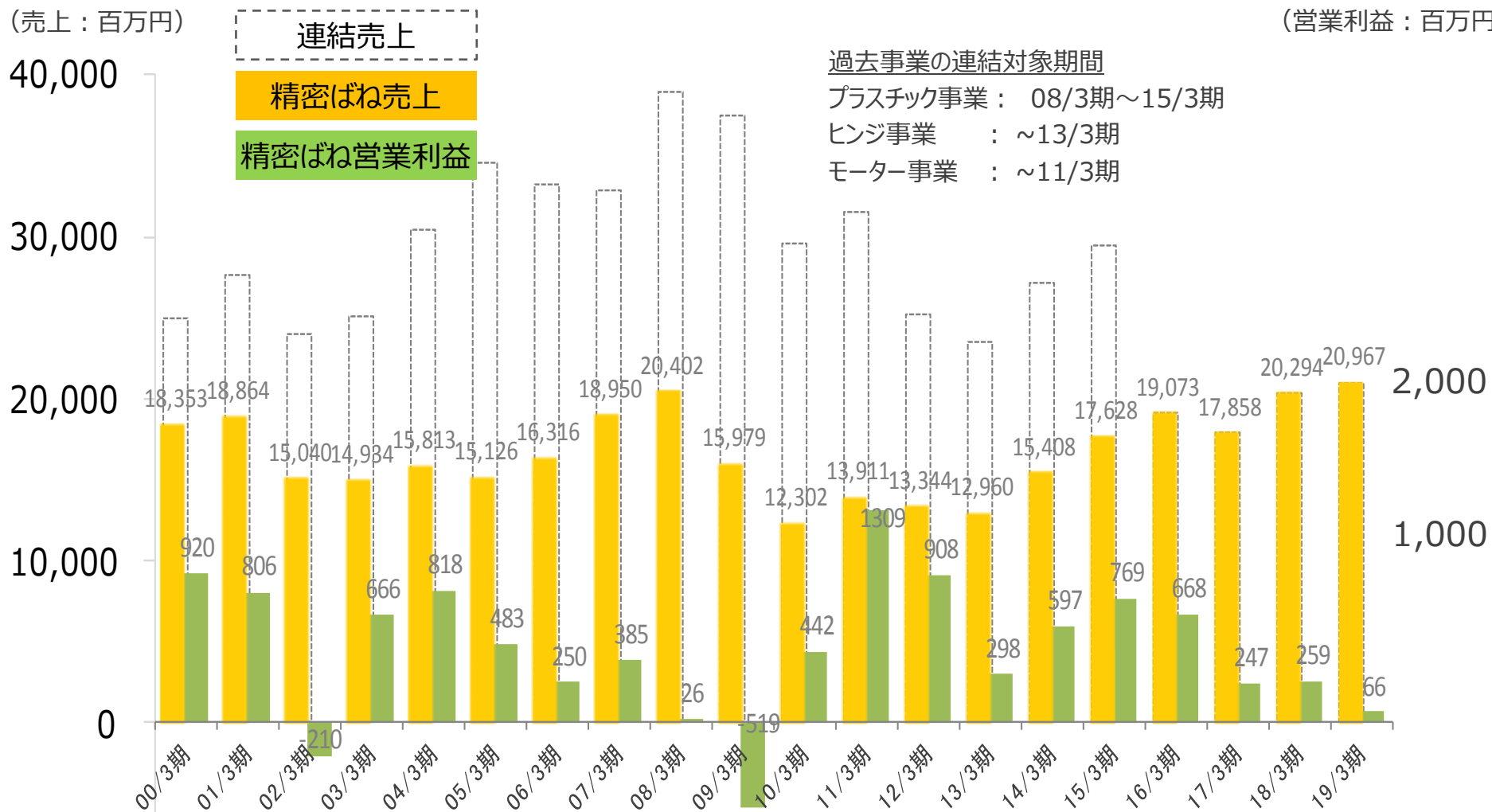
ばねメーカー分布

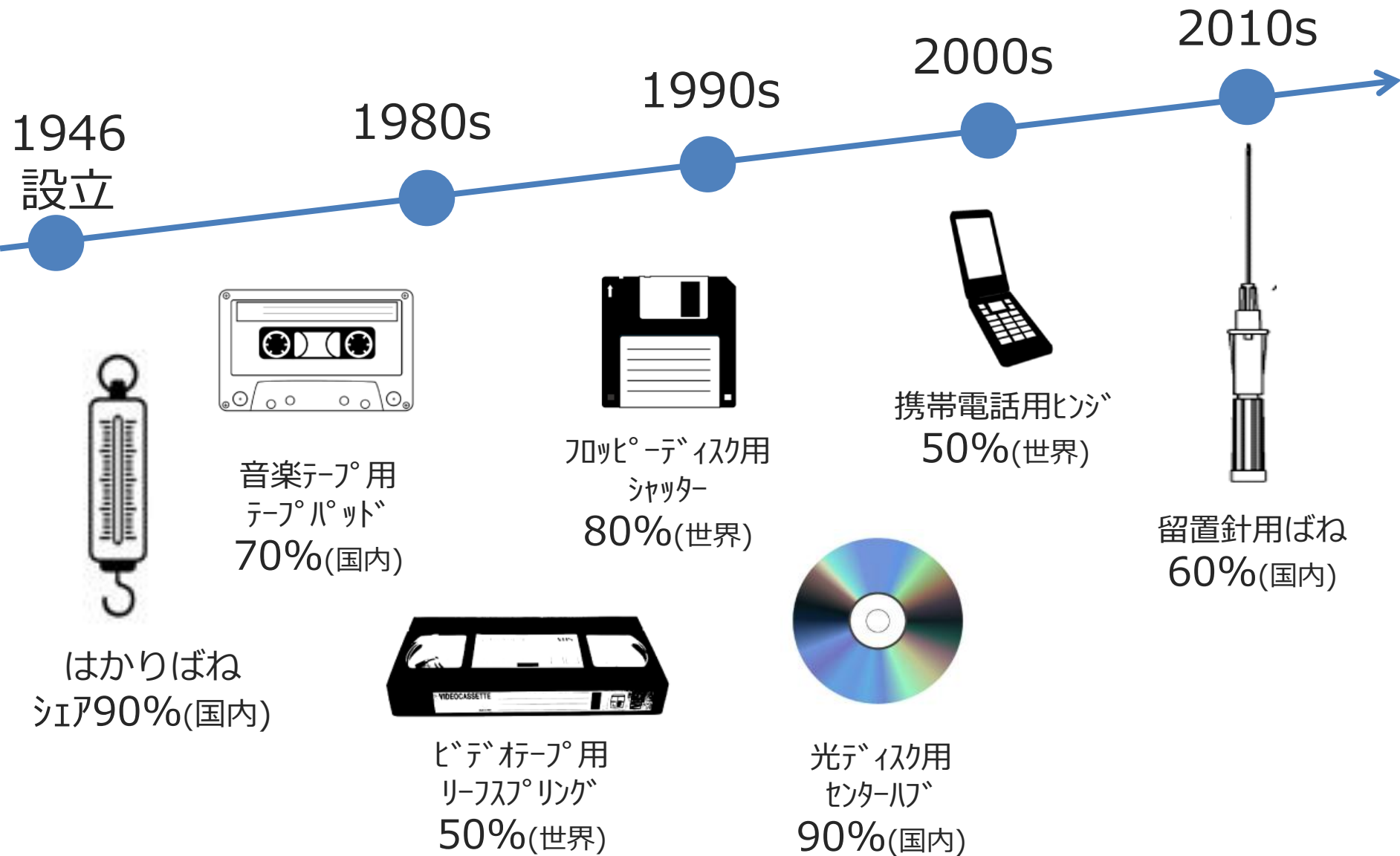


(参考資料) 精密ばね事業の業績推移

(売上：百万円)

(営業利益：百万円)





- 1930年 東京都江戸川区にばね専門工場を創業
- 1946年 株式会社に改組、資本金を199千円で
「株式会社加藤スプリング製作所」を設立
- 1964年 東証二部上場
- 1971年 カトウスプリングUSAをロサンゼルスに設立
(初の海外進出)
- 1976年 新潟県柏崎市に新潟工場を建設し操業を開始
- 1978年 カトウスプリング・シンガポールを設立
(初の海外生産拠点)
- 2001年 株式会社アドバネクスに社名を変更
- 2004年 東証一部に昇格
- 2014年 船橋電子株式会社を子会社化
- 2015年 埼玉工場開設



1957年頃の作業風景



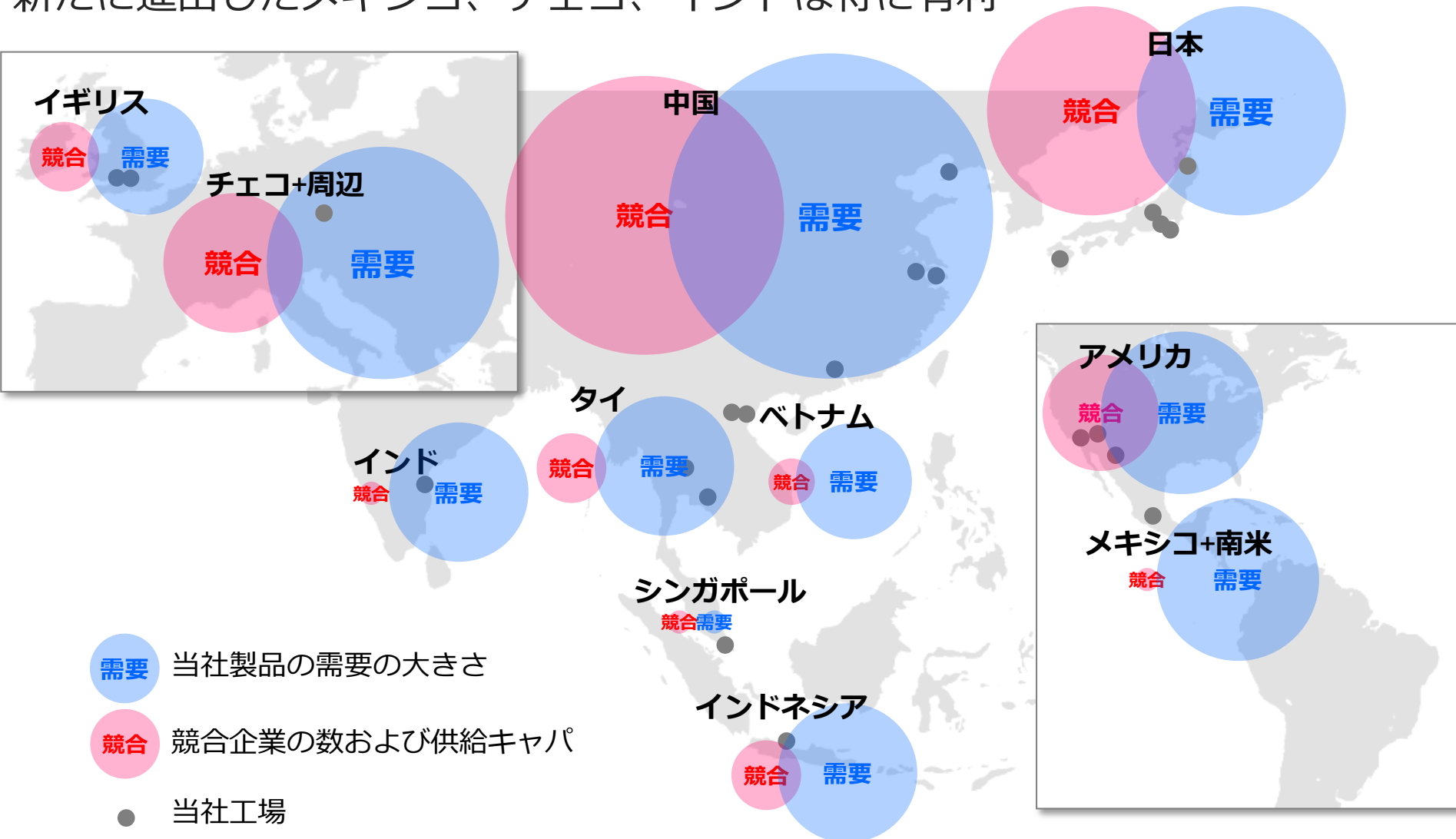
新潟工場



埼玉工場

(参考資料) 地域別需要と供給のバランス

当社製品の需要と競合（供給）のバランス⁽¹⁾を比較
新たに進出したメキシコ、チェコ、インドは特に有利





海外に10拠点以上を持つTier2は稀有、かつ有利（当社は海外18拠点）
当社の優位性がより鮮明に



自動車メーカー

社数	海外進出率	海外 10 拠点以上
10社	100%	100%



Tier1

605社	80%	10%~(当社推定)
------	-----	------------



Tier2

7,000社以上	14%
----------	-----

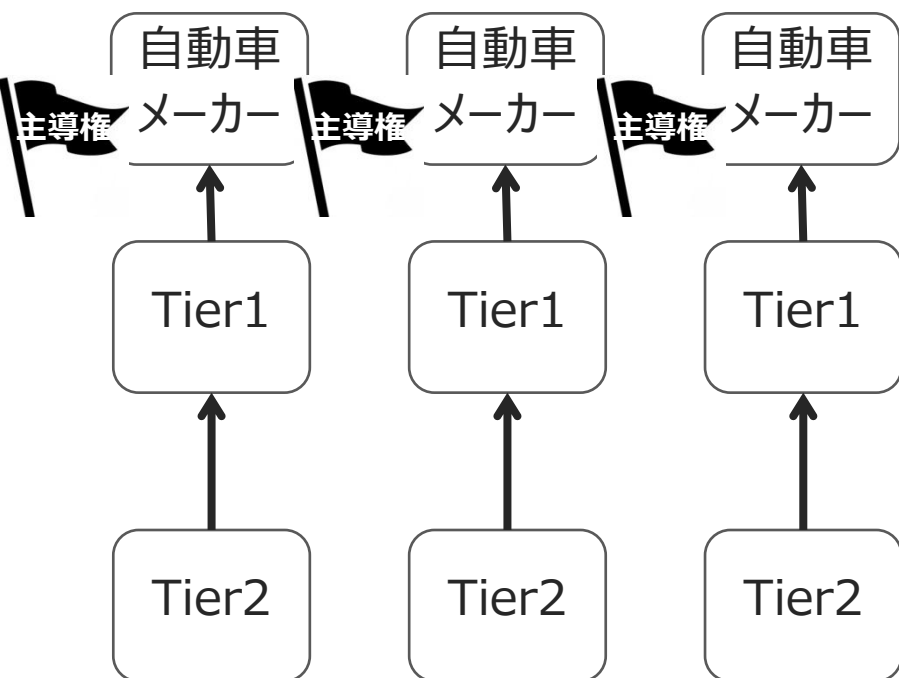
0.1%前後(当社推定)
ADVANCE

「高収益企業の特徴は、第一に不透明な情勢の下でともかくも海外進出を果たした企業であり、・・・」
「海外展開と新技術開発をめぐって部品メーカー・関連サプライヤーの2極化が鮮明である」

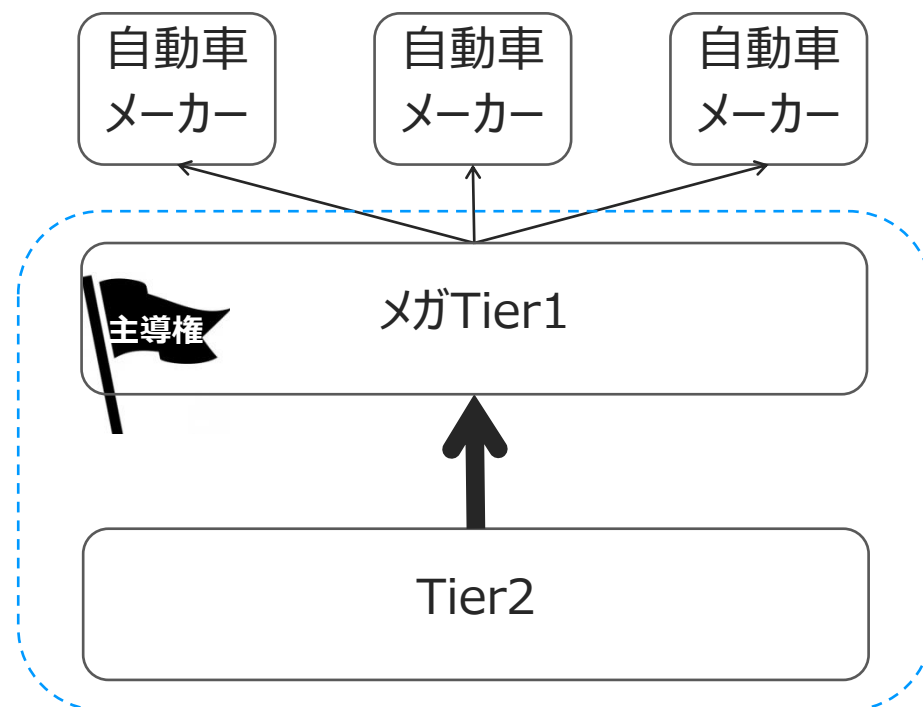
21世紀自動車産業グローバル化の特質と日本中小企業の経営環境変化(関東学院大学 清响一郎教授)より引用

Tier1のメガサプライヤー化によりTier2への要求も増大

従来



今後



Tier2への要求

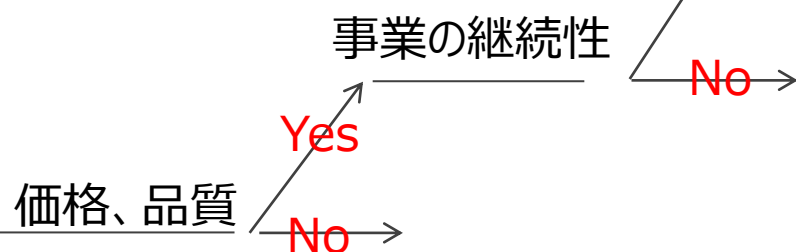
- グローバル供給体制
- 財務力、経営の持続性
- 開発力、対応力、提案力

Tier2の淘汰・選別が進む

今後は“事業の継続性”と“グローバル供給体制”が求められる



Tier2の採用条件



グローバル供給体制

Yes

No

Yes

No

今後のボーダーライン

Tier2
(日系は数千社)

従来のボーダーライン

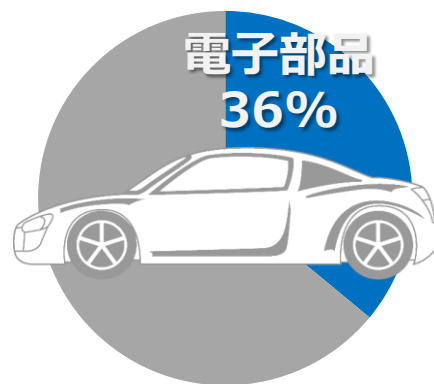
自動車の電子化が進む
元々エレクトロニクスに強かった当社には追い風

電子部品が占めるコスト(普通車の場合)

2008年



2020年



* ハイブリッド車の場合、電子部品コストは
2008年47%、2020年67%

* 電気自動車(EV)の場合は、
2015年70%以上

出典：日経ビジネス、経済産業省

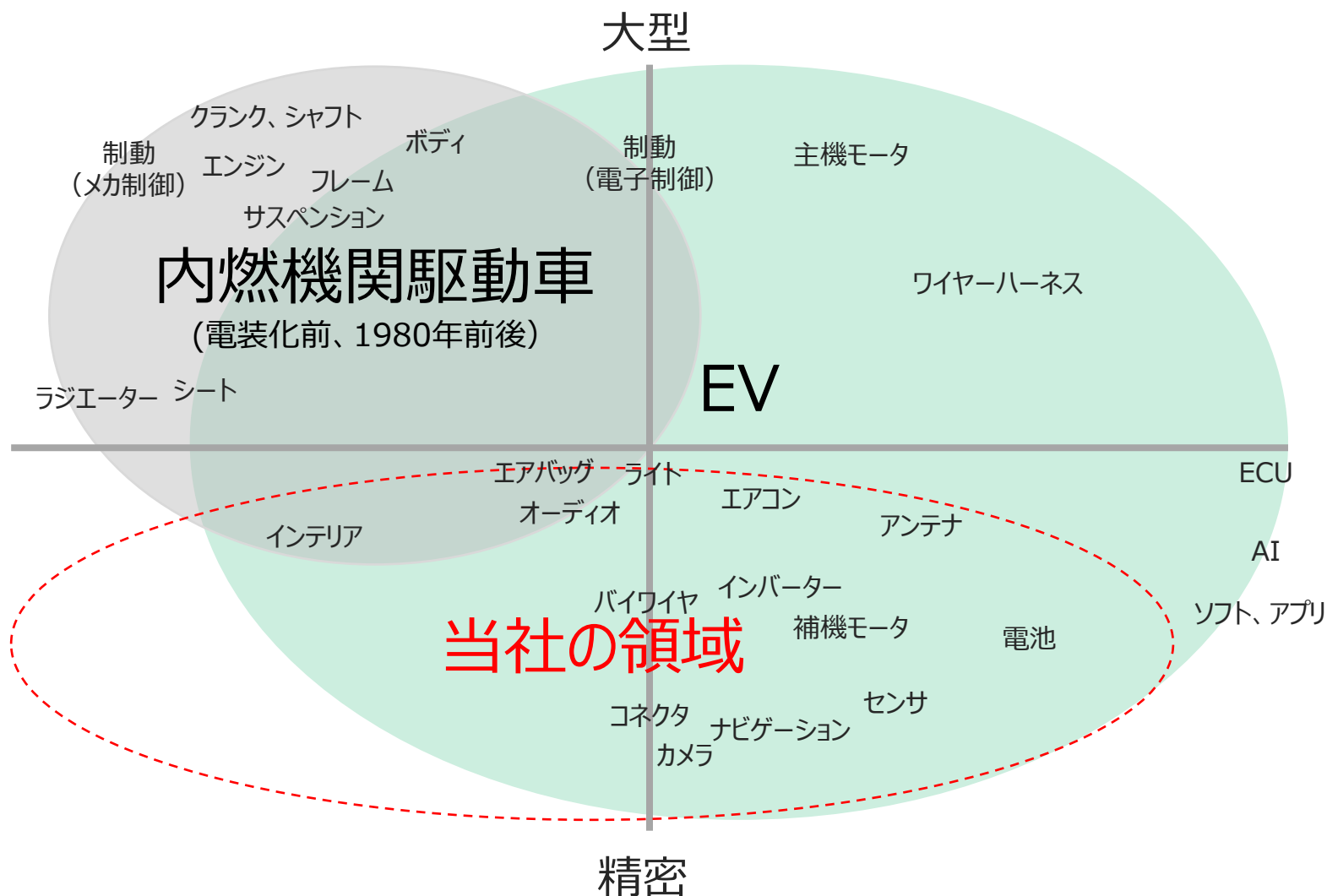
電子制御の流れと当社部品



EV構成部品の多くが当社の事業領域に重複

メカニクス

エレクトロニクス



軽量化のため、部品は鉄製からプラスチック製へ
ボルト締め部分を補強する、「インサートカラー」の需要が増加



インサートカラー



プラスチック製自動車部品

ばね等の当社金属製品が使われている自動車部品の一覧
車1台あたりの当社製品需要（合計金額）はEVの方が多い

内装系

- ・ディスプレイ
- ・エアバック
- ・シートベルト
- ・温度センサー
- ・レインセンサー
- ・車内ランプなど
- ・音声センサー
- ・画像認識カメラ
- ・通信機器など

駆動系

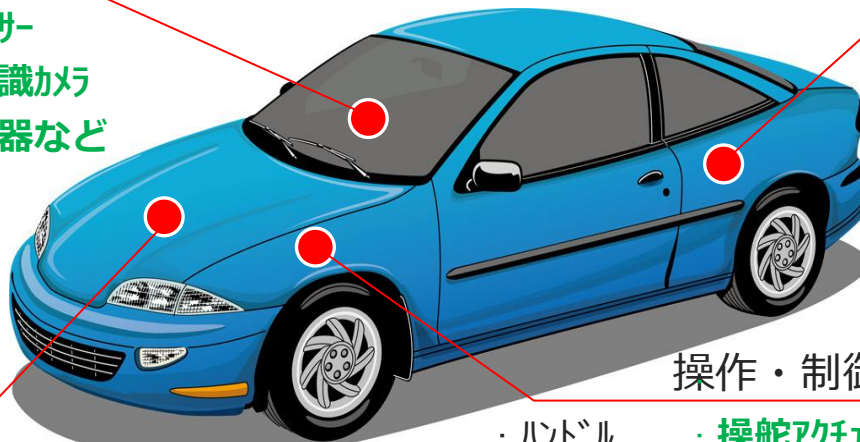
- ・点火コイル
- ・スターターモーター
- ・クランクセンサー
- ・ポンプ
- ・バルブなど
- ・駆動モーター
- ・バッテリー
- ・パワーコントロールユニット
- ・インバーター
- ・コンバーターなど

操作・制御系

- ・ハンドル
- ・ブレーキ
- ・横滑り防止センサー
- ・シフトバワイヤなど
- ・操舵アクチュエーターなど

外装系

- ・ヘッドライト
- ・アンテナ
- ・ドアロック
- ・ホイール
- ・ビューカメラ
- ・ETCセンサーなど
- ・超音波センサー
- ・画像認識カメラ
- ・レーダーなど



自動車向け当社製品



当社製品の需要（内燃機関車1台あたり1,000円と仮定した場合）

内燃機関車
1,000円@1台

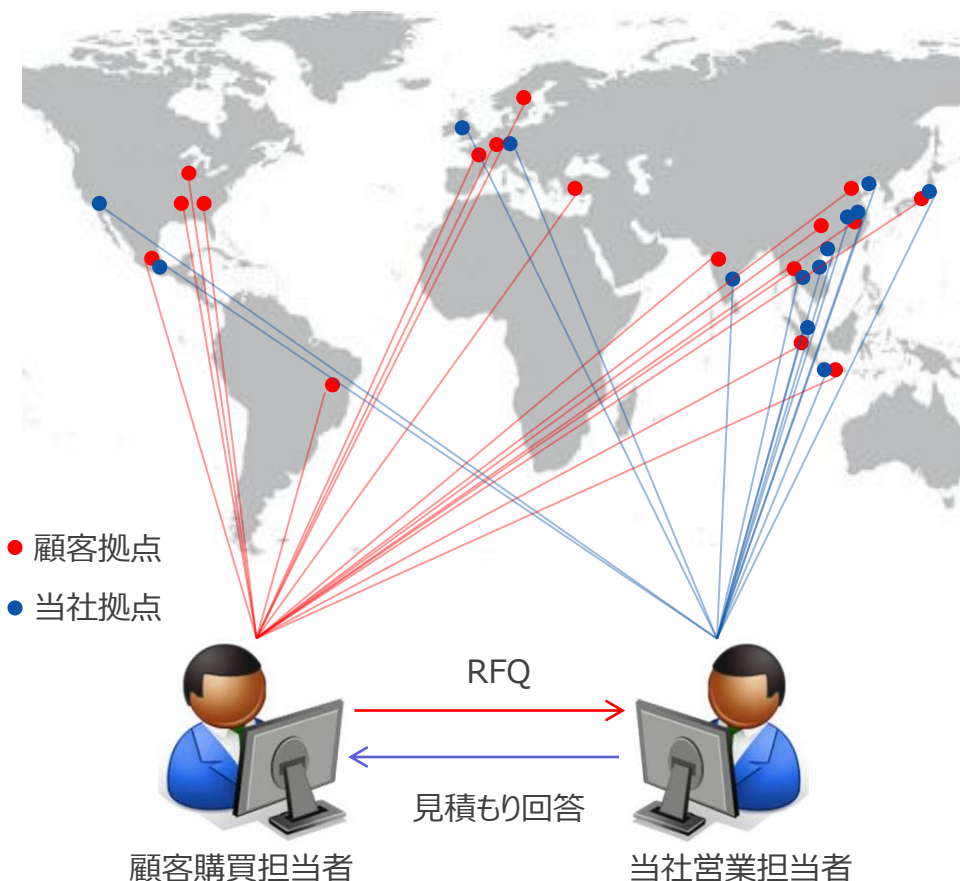
ハイブリッド車
1,200円@1台

EV（自動運転）
1,250円@1台

海外拠点数が多い当社はグローバル発注システム上有利

グローバル発注システム

顧客購買、当社営業窓口が一本化される傾向



日系ばねメーカー海外工場数

数では当社がダントツ

	海外工場数	所在国	ばねサイズ
アドバネクス	17	シンガポール、タイ(7工場、3工場)、ベトナム、中国(上海、大連、東莞、常州)、インド(ウタラખી, ビルガム、)、アメリカ(サウス、ドミニカ)、韓国(釜山、大邱)、インドネシア、中国	精密
A社	8	アメリカ、カナダ、中国、フィリピン、タイ、インドネシア、インド、ドイツ	大型
B社	8	アメリカ、インドネシア、韓国、タイ、中国、インド、韓国、インドネシア	精密
C社	7	アメリカ、韓国、ブラジル、タイ、中国、インド、スペイン	大型
D社	6	タイ、ベトナム、中国、韓国、インドネシア、インド	大型
E社	5	アメリカ、中国、ベトナム、インドネシア、タイ	精密
F社	5	中国(4)、マレーシア	精密
G社	5	アメリカ、中国、ベトナム、タイ、韓国	大型
H社	5	中国、台湾、タイ、インドネシア、アメリカ	大型
I社	4	アメリカ、ドイツ、タイ、中国	大型
J社	4	中国、香港、ベトナム、フィリピン	大型

アルミ、CFRPなどの軽量材のねじ穴を補強

(軟質材に直接ねじを挿入するとねじ山が壊れる)

タングレス・インサートと挿入工具



使用例



ボルト締め

挿入後

挿入前



カットサンプル

タングレス・インサートと従来品の比較

形状

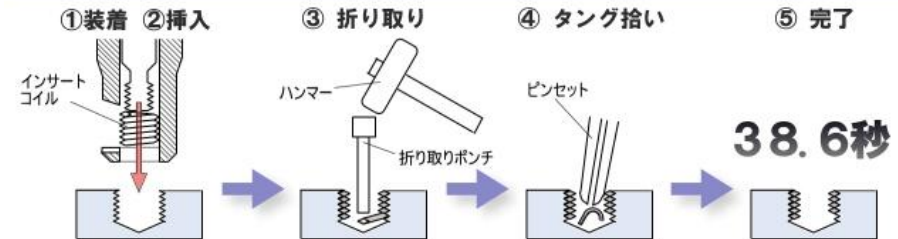


参照: (株)アキレイトのHP

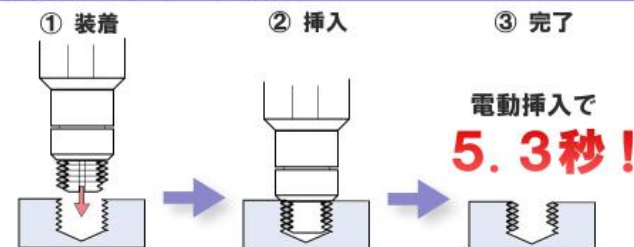
作業性

③作業時間が短縮できます 従来インサートとタングレス・インサートの違い

従来インサートの作業



タングレス・インサートの作業



参照: (株)アキレイトのHP

タングレス・インサートは、

- 作業スピードが速い
- 熟練を要しない

⇒ 飛行機や鉄道車両など大量に使用する分野で特に有利

グローバルマーケティング部門が中心となり各エリアでの市場開拓を強化
倍の20億円を目指す



タングレス・インサート

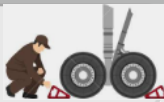


欧州：成長中

- 近年急成長中
- 市場は雑多(ヘリコプター等)

中国：開拓中

- メンテナンス市場に商機
- 期待は高い



日本：成長中

- 生産設備向けなど
- 最近は鉄道・トラック向けが増加



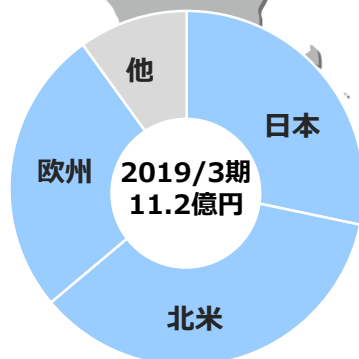
北米：成長中

- 飛行機向けが中心
- 飛行機生産数は毎年5%増



アフリカ：未開拓

タングレス・インサート地域別

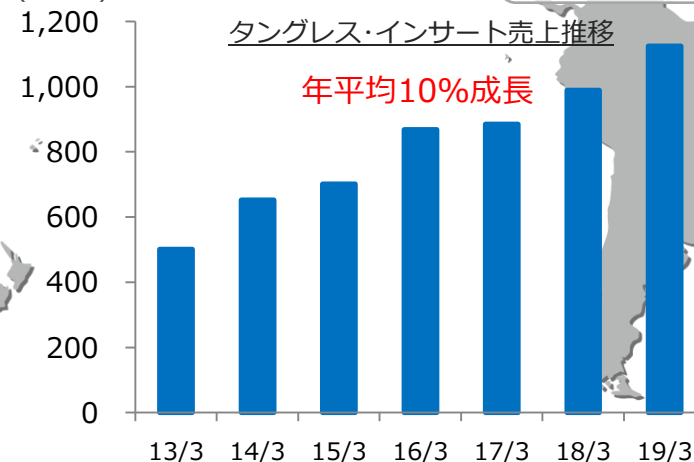


東南アジア：開拓中

- 他社廉価品が席卷
- 期待はあまり高くない

中南米：未開拓

(百万円)



タングレス・インサート売上推移

年平均10%成長

“ばね機構”のナット脱落防止具



ロックワン



ペタルファスナー



鉄道



道路橋梁



太陽光パネル



深絞り、フォーミング加工への工法転換により大幅コストダウン

